

**奈良市の環境に関する
市民アンケート調査及び事業所アンケート調査
結果報告書**

**平成 28 年 11 月
奈良市**

目 次

I	調査の概要.....	1
II	市民アンケート調査結果.....	2
III	事業所アンケート調査結果.....	20

I 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 対象者及び抽出方法

○市民アンケート：奈良市在住の18歳以上の男女1,500人を住民基本台帳から無作為抽出

○事業所アンケート：奈良市内に所在する事業所500社を無作為抽出

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収

奈良市ホームページでのWebアンケート（市民アンケートのみ）

(3) 調査期間

○郵送調査

平成28年4月28日～平成28年5月20日

○Webアンケート

平成28年4月28日～平成28年5月20日

2. 回収状況

調査対象者	配布数	有効回収数	有効回収率
市 民	1,500	739※	49.2%
事業所	500	206	41.2%

※Webアンケートの回答数6件を含みます。

3. データの見方

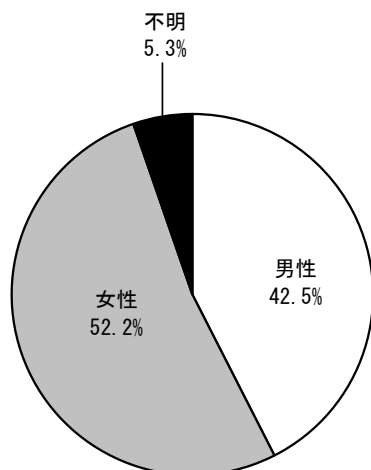
- ・回答結果は少数第2位を四捨五入し、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（SA）（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（MA）（複数の選択肢から1つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・「NA」は、数量回答をあらわしています。
- ・図表中において、「不明」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- ・図表中の「N」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。

II 市民アンケート調査結果

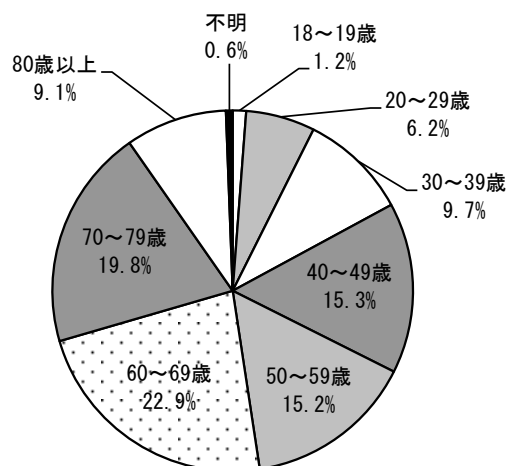
問 1 回答者の属性・区分

問 1	(1) 性別は、女性：男性＝52.2%：42.5%	(2) 年齢は、60代の割合が最も高く22.9%、次いで70代19.8%、40～50代は約15%、10～30代及び80代は10%以下。
	(3) 職業は、給与所得者（35.3%）と無職（年金生活者含む）（34.5%）の割合が高い。	(4) 同居の家族数は、本人を含めて2人（36.8%）が最も高く、次いで3人（23.3%）、4人（18.7%）。
	(5) 奈良市での居住年数は、15年以上が8割弱を占めている。	(6) 住まいの形態は、一戸建住宅（68.5%）が最も高く、次いで集合住宅（28.3%）。
	(7) 通勤・通学先は、「通勤や通学をしていない」が46.1%を占めているが、それ以外は奈良市内21.5%、県外18.3%、県内6.0%の順。	(8) 通勤・通学、その他主な移動手段は、鉄道（29.9%）、自動車（23.7%）、バス（5.5%）、自転車（4.6%）、徒歩（4.1%）の順。

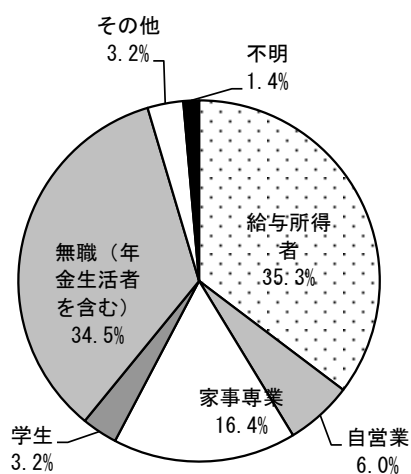
(1) 性別
(SA) N = 739



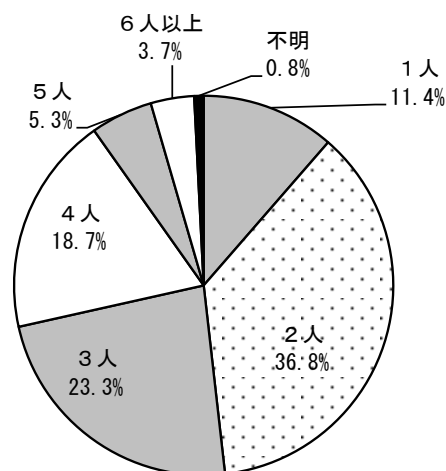
(2) 年齢
(SA) N = 739



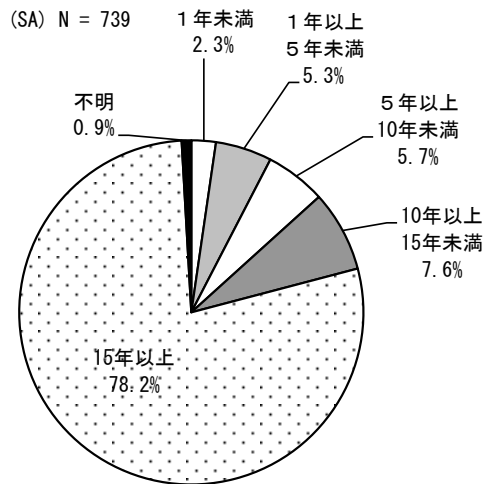
(3) 職業
(SA) N = 739



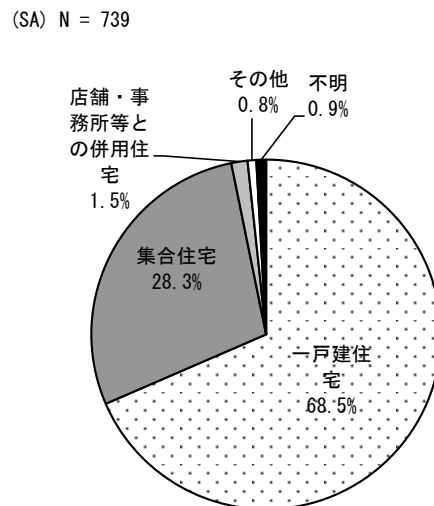
(4) 同居の家族の人数
(SA) N = 739



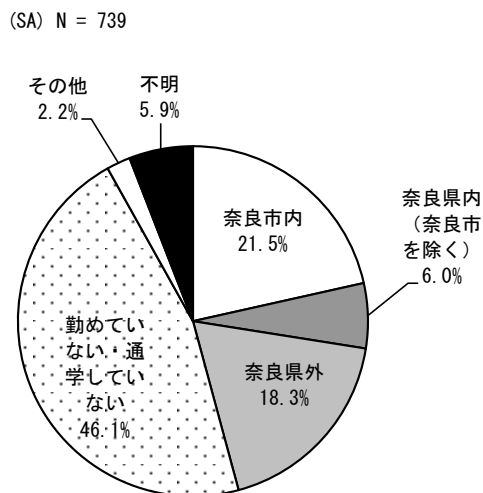
(5) 奈良市での居住年数



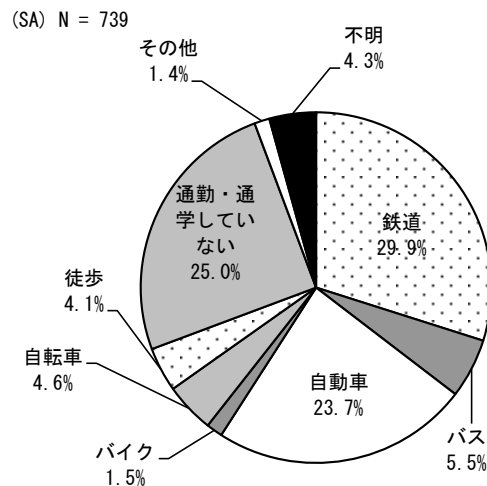
(6) お住まいの形態



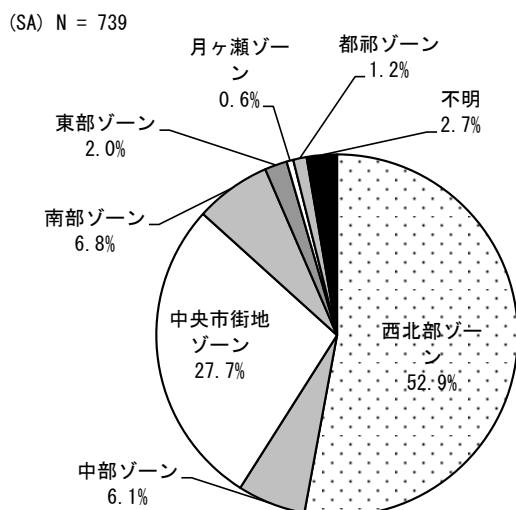
(7) 通勤・通学先



(8) 通勤・通学、その他主な移動手段



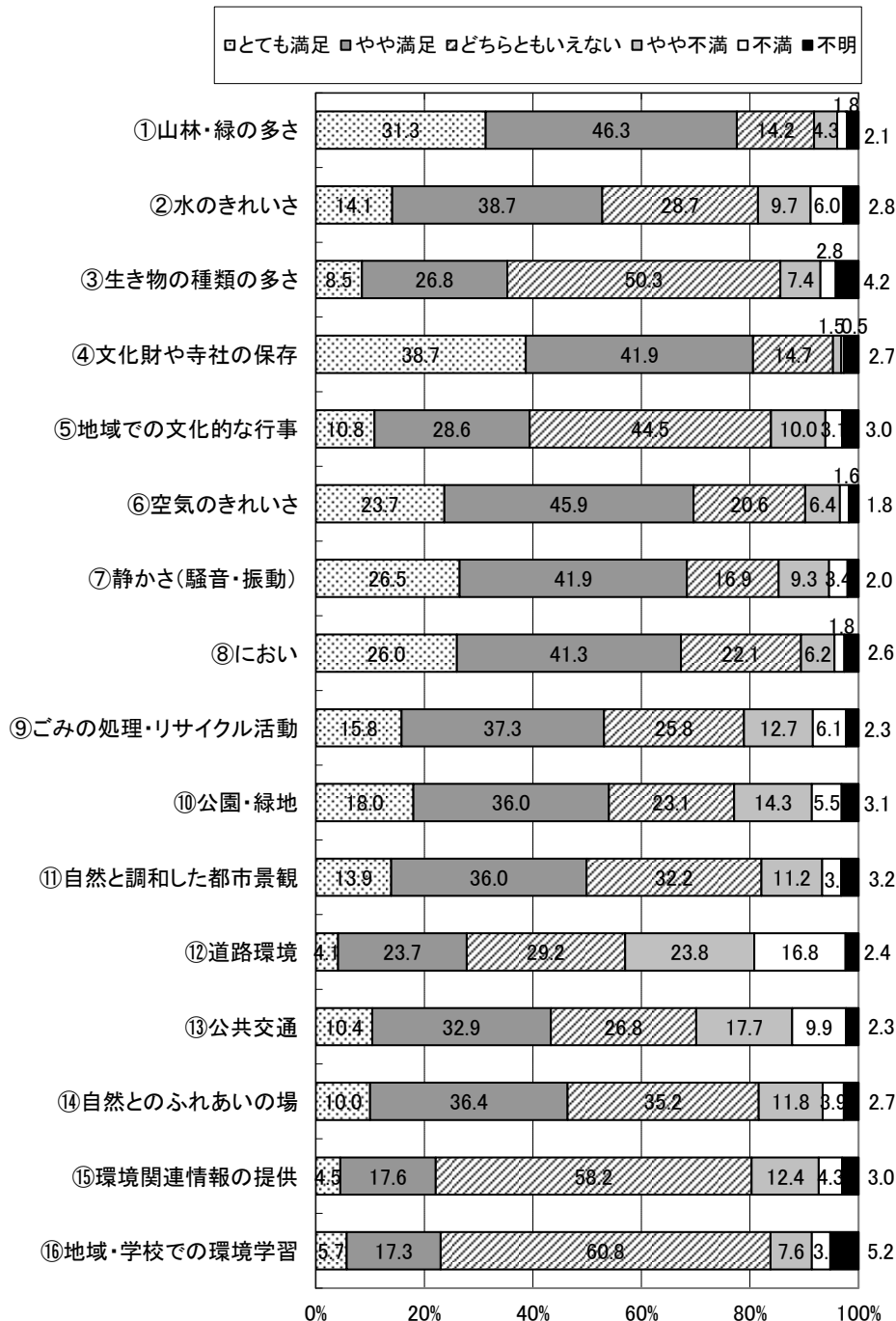
問2 あなたのお住まいの小学校区が含まれるゾーンの番号に○をつけてください。



居住地のゾーンは、西北部ゾーンが52.9%で過半数を占めており、次いで中央市街地ゾーン27.7%、南部ゾーン6.8%の順となっています。最も低いのは月ヶ瀬ゾーンの0.6%です。

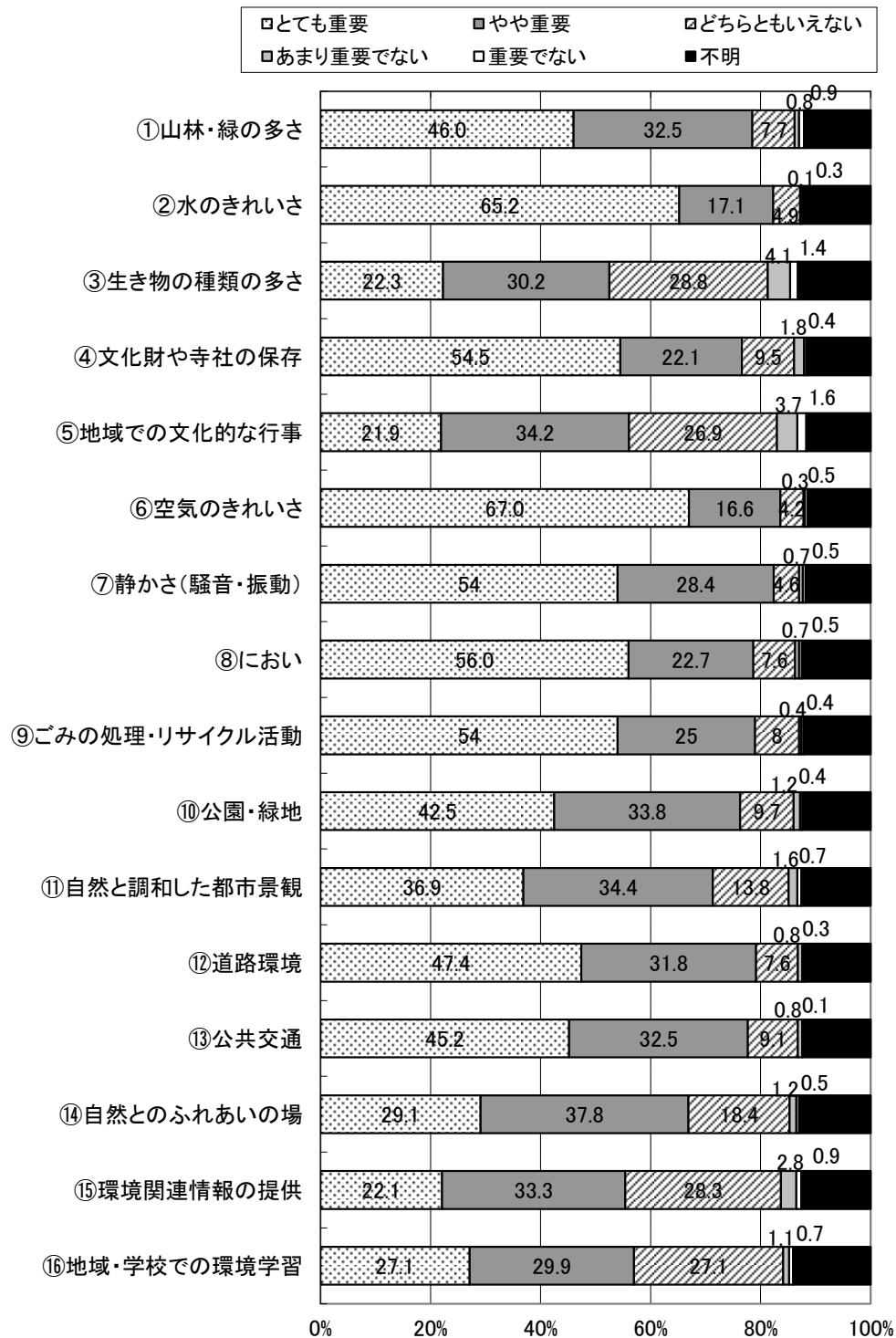
問3 以下に掲げる奈良市の環境について、あなたはどのくらい満足していますか。また、それらはどのくらい重要だと考えますか。(満足度と重要度それぞれ1つに○)

満足度



「とても満足」＋「やや満足」の上位5位まで	「不満」＋「やや不満」の上位5位まで
④文化財や寺社の保存 (80.6%)	⑫道路環境 (40.6%)
①山林・緑の多さ (77.6%)	⑬公共交通 (27.6%)
⑥空気のきれいさ (69.6%)	⑩公園・緑地 (19.8%)
⑦静かさ(騒音・振動) (68.4%)	⑨ごみの処理・リサイクル活動 (18.8%)
⑧におい (67.3%)	⑮環境関連情報の提供 (16.7%)

重要度

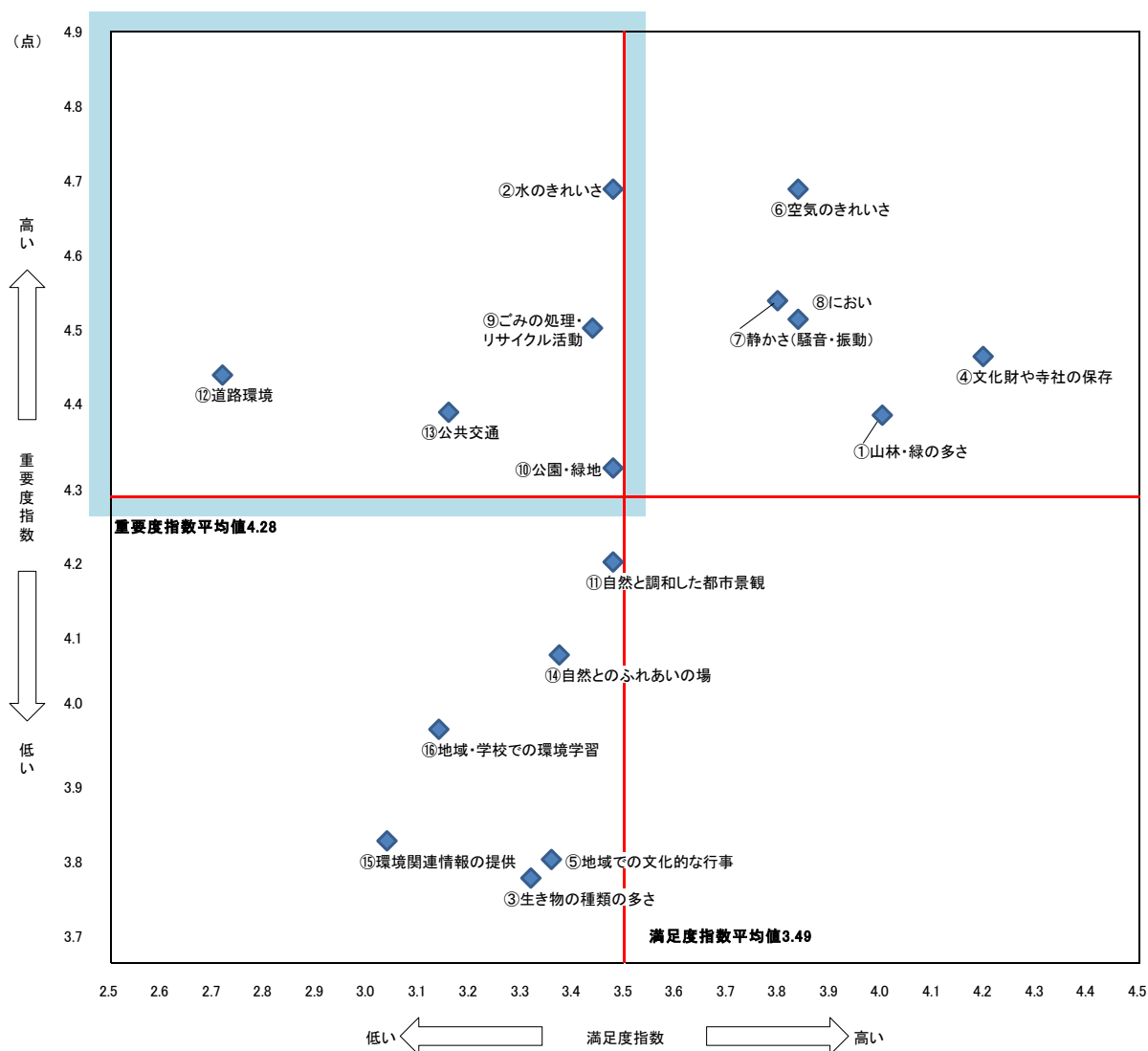


「とても重要」＋「やや重要」の上位5位まで	「重要でない」＋「あまり重要でない」の上位5位まで
⑥空気のきれいさ (83.6%)	③生き物の種類の多さ (5.5%)
⑦静かさ(騒音・振動) (82.4%)	⑤地域での文化的な行事 (5.3%)
②水のきれいさ (82.3%)	⑮環境関連情報の提供 (3.7%)
⑫道路環境 (79.2%)	⑪自然と調和した都市景観 (2.3%)
⑨ごみの処理・リサイクル活動 (79.0%)	④文化財や寺社の保存 (2.2%)

■満足度と重要度の関係分析

奈良市の環境に関する各項目の満足度指数※¹と重要度指数※²を用いて、満足度と重要度の関係を示す表を作成し、特性の把握を行いました。

満足度指数が平均値（3.49）を下回り、重要度指数が平均値（4.28）を上回る象限に該当する項目が「今後、積極的に対応を図るべき取組」と考えられます。



		満足度	重要度
自然・歴史	①山林・緑の多さ	4.03	4.38
	②水のきれいさ	3.47	4.68
生活環境	③生き物の種類の多さ	3.32	3.78
	④文化財や寺社の保存	4.20	4.46
都市環境	⑤地域での文化的な行事	3.35	3.81
	⑥空気のきれいさ	3.85	4.68
環境教育	⑦静かさ(騒音・振動)	3.80	4.53
	⑧におい	3.86	4.52
環境教育	⑨ごみの処理・リサイクル活動	3.45	4.50
	⑩公園・緑地	3.48	4.33
環境教育	⑪自然と調和した都市景観	3.47	4.20
	⑫道路環境	2.74	4.43
環境教育	⑬公共交通	3.17	4.39
	⑭自然とのふれあいの場	3.38	4.08
環境教育	⑮環境関連情報の提供	3.06	3.83
	⑯地域・学校での環境学習	3.15	3.95
	平均値	3.49	4.28

※1 満足度指数：アンケート回答者の評価を得点化し、加重平均して算出した値。

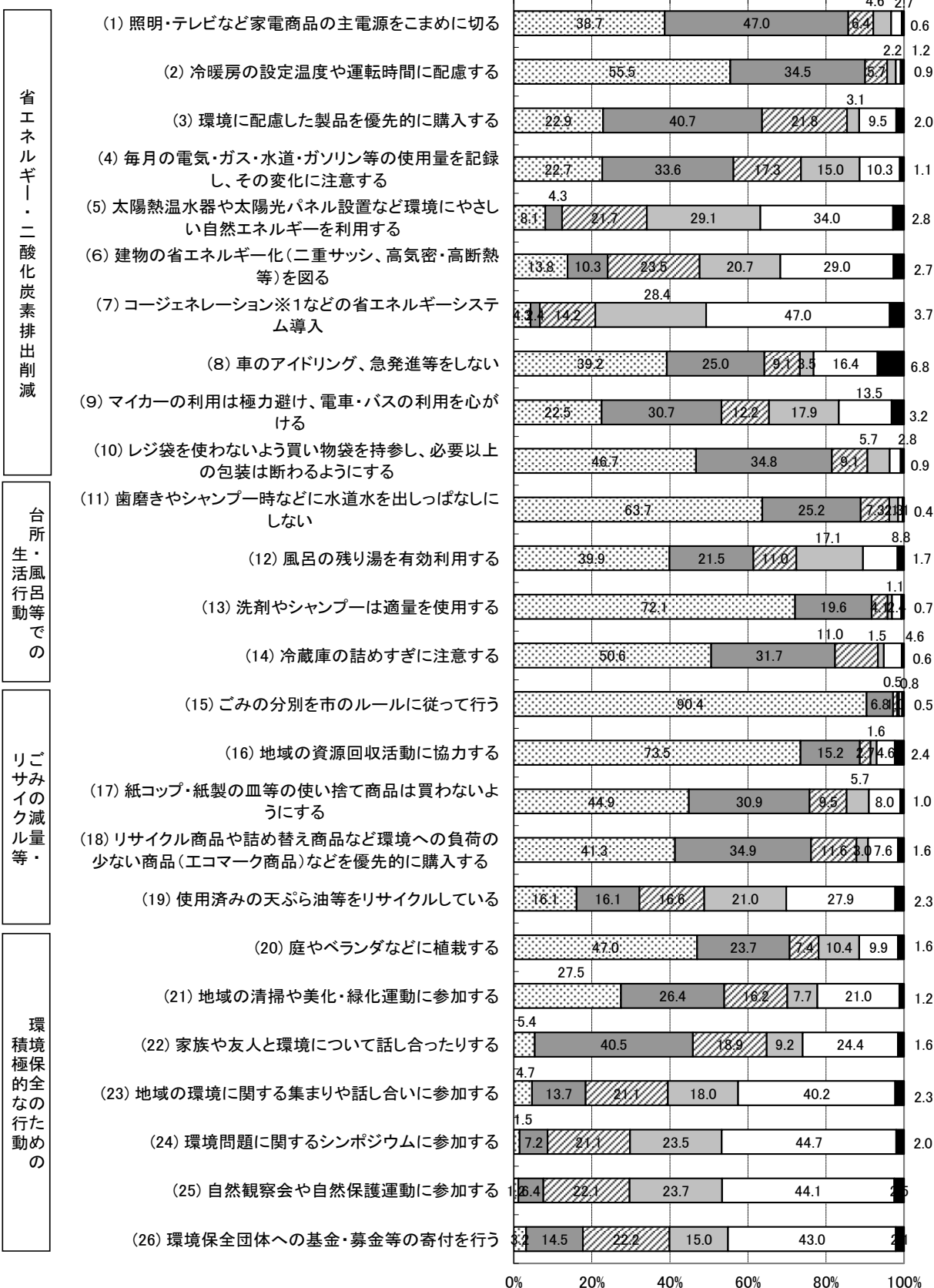
- ・とても満足：5点
- ・やや満足：4点
- ・どちらともいえない：3点
- ・やや不満：2点
- ・不満：1点

※2 重要度指数：アンケート回答者の評価を得点化し、加重平均して算出した値。

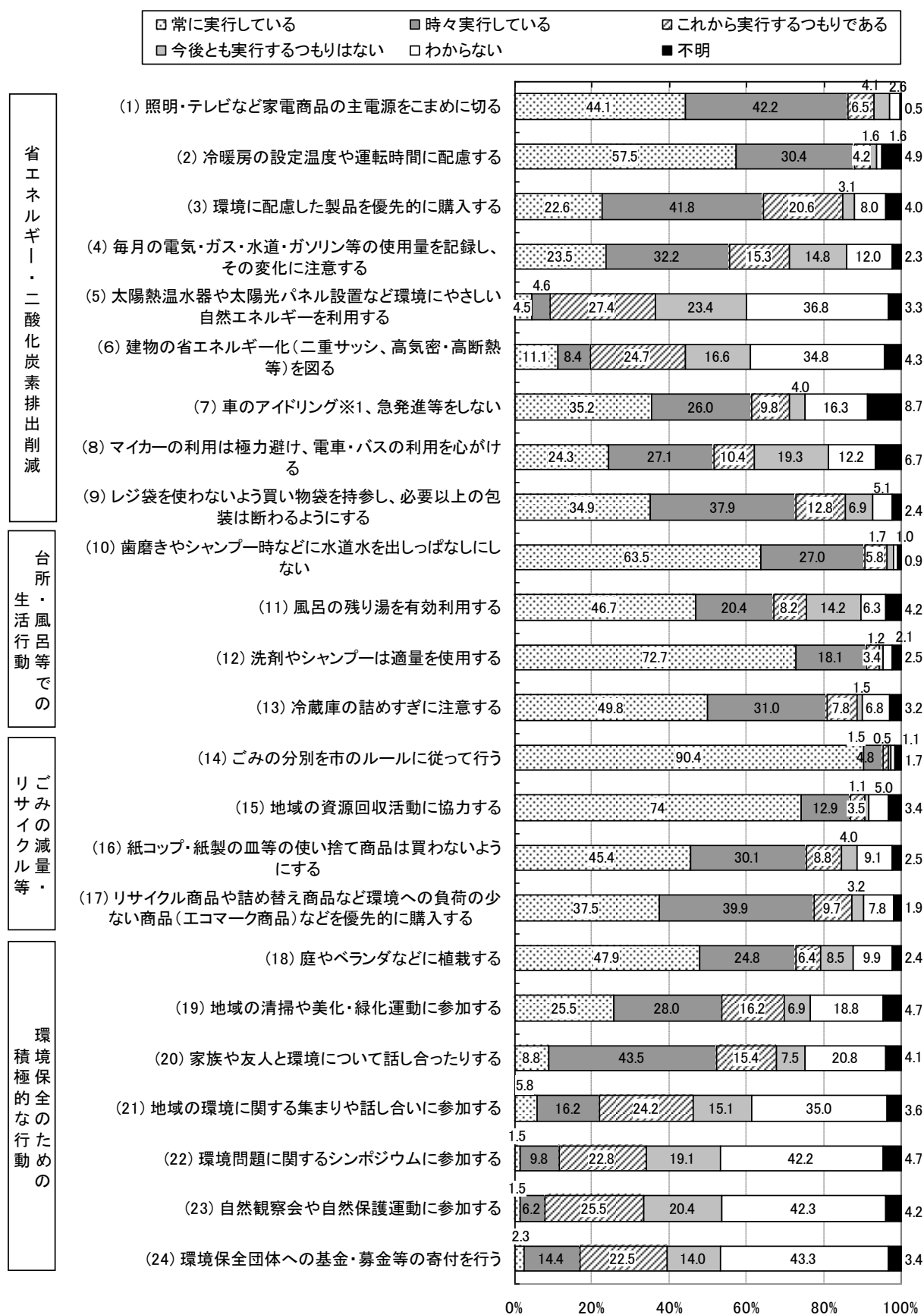
- ・とても重要：5点
- ・やや重要：4点
- ・どちらともいえない：3点
- ・あまり重要でない：2点
- ・重要でない：1点

問4 あなたの日常生活における環境保全の取組状況についておたずねします。
(それぞれ1つに○)

□常に実行している ■時々実行している □これから実行するつもりである
□今後とも実行するつもりはない □わからない ■不明



■前回調査（平成22年度実施）結果



○今回の調査結果

順位	「常に行う」+「時々行う」の ランキング		順位	「これから行うつもり」の ランキング		順位	「今後とも行うつもりはない」 のランキング	
1	(15) ごみの分別を市のルールに従って行う	97.2%	1	(6) 建物の省エネルギー化（二重サッシ、高気密・高断熱等）を図る	23.5%	1	(5) 太陽熱温水器や太陽光パネル設置など環境にやさしい自然エネルギーを利用する	29.1%
2	(13) 洗剤やシャンプーは適量を使用する	91.7%	2	(26) 環境保全団体への基金・募金等の寄付を行う	22.2%	2	(7) コージェネレーションなどの省エネルギーシステム導入	28.4%
3	(2) 冷暖房の設定温度や運転時間に配慮する	90.0%	3	(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する	22.1%	3	(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する	23.7%
4	(11) 歯磨きやシャンプー時などに水道水を出しっぱなしにしない	88.9%	4	(3) 環境に配慮した製品を優先的に購入する	21.8%	4	(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する	23.5%
5	(16) 地域の資源回収活動に協力する	88.7%	5	(5) 太陽熱温水器や太陽光パネル設置など環境にやさしい自然エネルギーを利用する	21.7%	5	(19) 使用済みの天ぷら油等をリサイクルしている	21.0%

○前回調査（平成 22 年実施）の調査結果

順位	「常に行う」+「時々行う」の ランキング		順位	「これから行うつもり」の ランキング		順位	「今後とも行うつもりはない」 のランキング	
1	(14) ごみの分別を市のルールに従って行う	95.2%	1	(5) 太陽熱温水器や太陽光パネル設置など環境にやさしい自然エネルギーを利用する	27.4%	1	(5) 太陽熱温水器や太陽光パネル設置など環境にやさしい自然エネルギーを利用する	23.4%
2	(12) 洗剤やシャンプーは適量を使用する	90.8%	2	(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する	25.5%	2	(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する	20.4%
3	(10) 歯磨きやシャンプー時などに水道水を出しっぱなしにしない	90.5%	3	(6) 建物の省エネルギー化（二重サッシ、高気密・高断熱等）を図る	24.7%	3	(8) マイカーの利用は極力避け、電車・バスの利用を心がける	19.3%
4	(2) 冷暖房の設定温度や運転時間に配慮する	87.9%	4	(21) 地域の環境に関する集まりや話し合いに参加する	24.2%	4	(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する	19.1%
5	(15) 地域の資源回収活動に協力する	86.9%	5	(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する	22.8%	5	(6) 建物の省エネルギー化（二重サッシ、高気密・高断熱等）を図る	16.6%

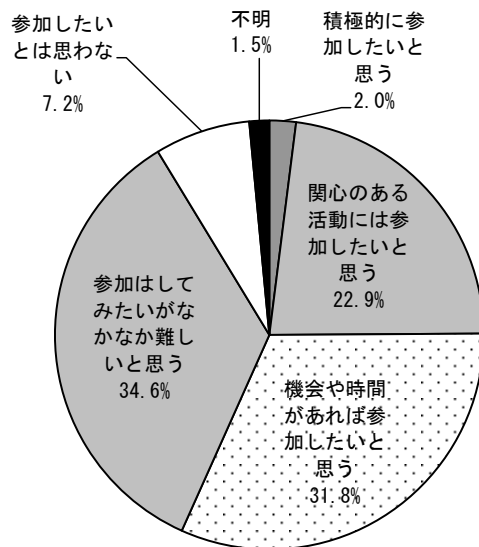
■前回調査（平成 22 年度実施）との比較

前回調査から 5 年が経過し、市民の環境に対する意識や日常生活における取組はどの程度変化しているのかを知るために、両調査における同じ項目（表現は多少違っても趣旨が似通っているものを含む）の結果を比較しました。

- ・「常に行う」+「時々行う」では、両調査における上位ランキングの変化を見ると、数値には多少の上下があるものの両調査ともに、上位 5 項目が同じ項目となっており、これらの項目は市民にとって比較的取り組みやすい環境配慮行動であるといえます。
- ・「これから（たまに）行うつもり」では、上位 5 項目中 3 項目が同じ項目となっています。また、(5)、(23)は「今後とも行うつもりはない」でもそれぞれ 1 位、3 位を占めています。
- ・「(19) 地域の清掃や美化・緑化運動に参加する」「(21) 地域の環境に関する集まりや話し合いに参加する」「(22) 環境問題に関するシンポジウムに参加する」「(23) 自然観察会や自然保護運動に参加する」は環境活動への参加の項目で、一歩進んだ行動となりますが、「これから行うつもり」では、どれも前回調査よりややポイントが低く、(21) (22) (23) は、その分「今後とも行うつもりはない」のポイントが前回調査より高くなっています。

問5 今後、環境保全活動には市民参加が一層重要になってくると思われますが、あなたはどのように考えていますか。(1つに○)

(SA) N = 739

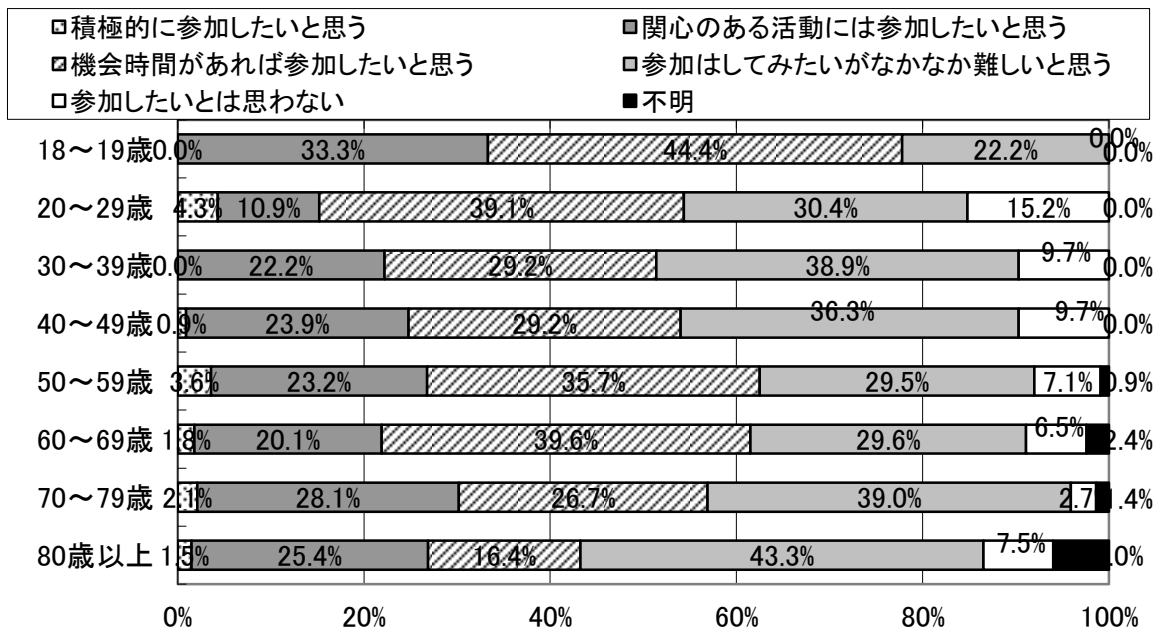


環境保全活動への参加については、「参加はしてみたいがなかなか難しいと思う」の割合が最も高く 34.6%、次いで「機会や時間があれば参加したいと思う」31.8%、「関心のある活動には参加したいと思う」22.9%となっています。「積極的に参加したいと思う」の割合は低く 2.0%となっています。

これを年齢別に見ると、「積極的に参加したいと思う」と「関心のある活動には参加したいと思う」を合わせて参加に最も意欲的なのは 18～19 歳が 33.3%、次いで 70 代が 30.2%、20 代の割合が最も低く 15.2%で、他は 20%台となっています。

「積極的に参加したいと思う」とした人は、20 代の割合が最も高く 4.3%となっています。

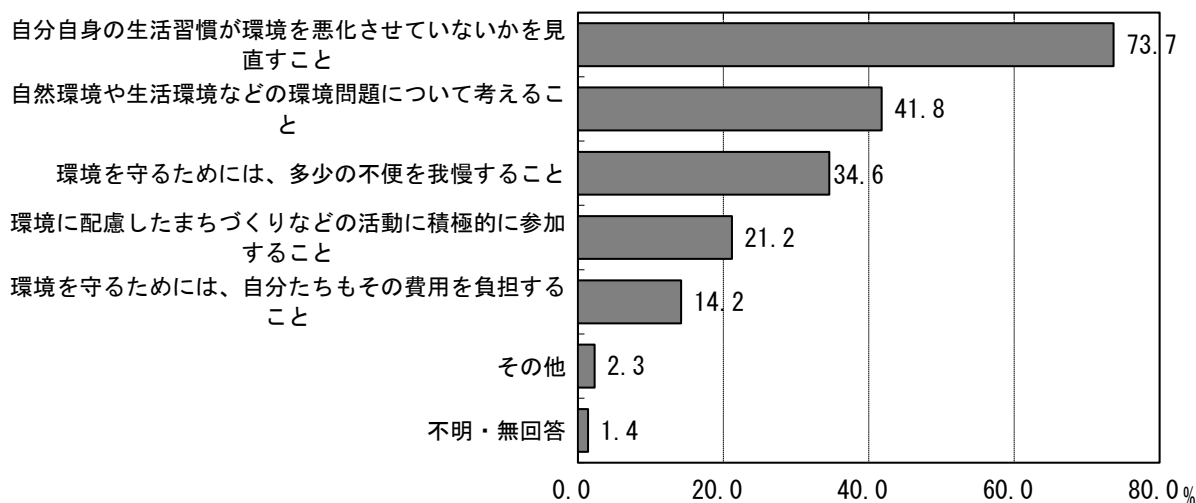
■年齢別でみる環境保全活動への市民参加の思い



問5 「参加したいとは思わない」の理由		件数
高齢や健康上の問題		8
面倒。興味がない		5
時間がない。		4
個々にできることをすれば良い。		2
活動内容が不明、参加する必要がある。		2
その他	・地域の多数の高齢者の人達とふれあいたくない ・何かすると近所がうるさい。	2
行政	・行政が主導すべき	1

問6 今後、環境をよりよくするために、「市民」が取り組まなければならないと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

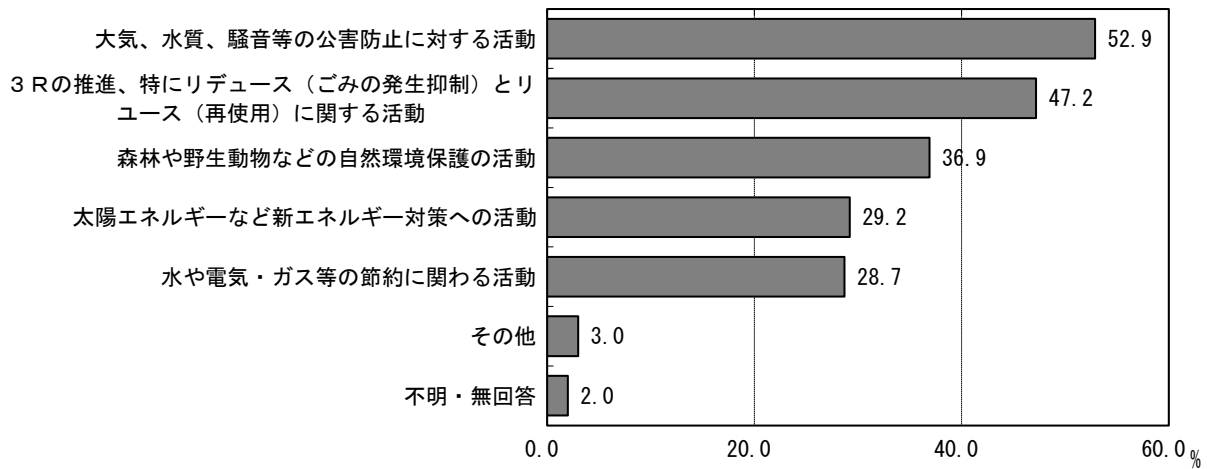
(MA) N = 739



問6 「市民」が取り組まなければならないと思うことの「その他」意見	件数
自覚して行動する	3
川の土手や歩道のゴミは見つけたら処理する	3
一人一人がルールを守る事	2
どのような効果があるのか理解すること	2

問7 今後、環境をよりよくするために「市民団体・NPO等」に取り組んでほしいと思うことは何ですか。（〇は3つまで）

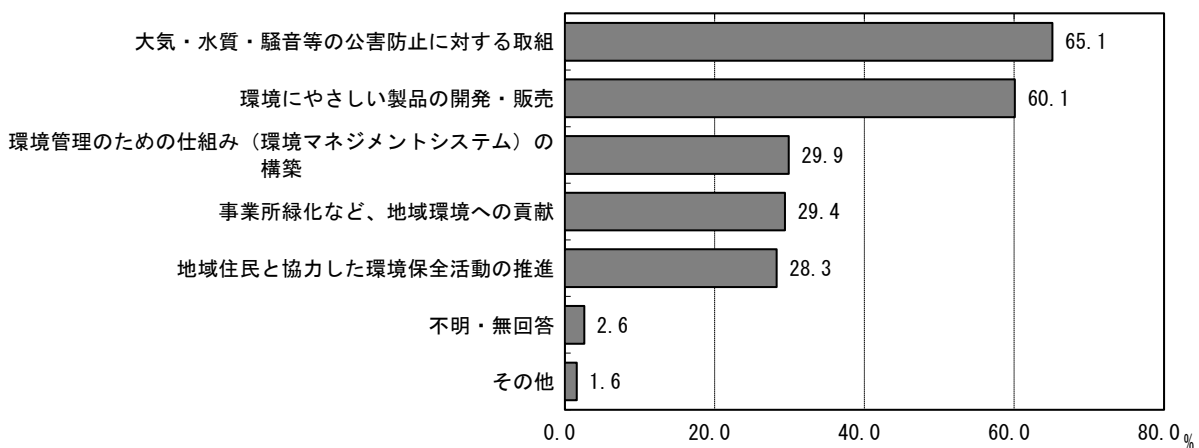
(MA) N = 739



問7 「市民団体・NPO等」に取り組んでほしいと思うことの「その他」意見	件数
道路環境を良くする	5
歩きタバコ、ポイ捨ての防止	2
深夜のバイク騒音・見回り等ルールを守らない人への対策	2
子どもの時から（学校等で）環境問題について学習する機会	1
市民一人一人が環境を良くする為の意識づけの強化	1

問8 今後、環境をよりよくするために「企業や事業者」に期待することは何ですか。（〇は3つまで）

(MA) N = 739

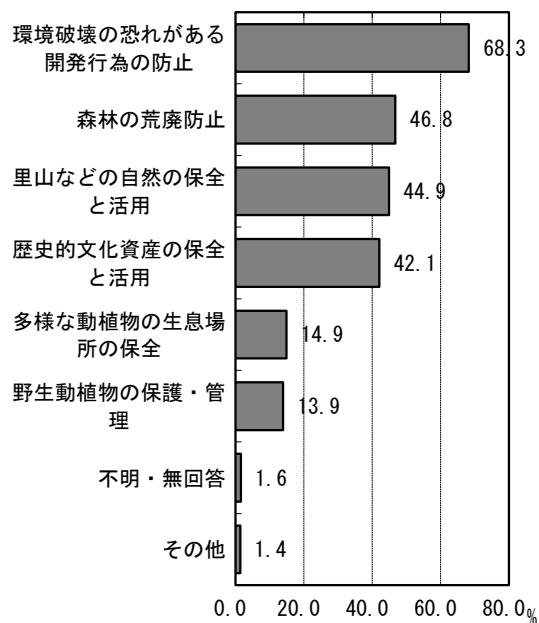


問8 「企業や事業者」に期待することの「その他」意見	件数
過度の包装をしない	1
道路環境をよくする	1

問9 今後、環境をよりよくしていくために「行政（奈良市）」はどのような施策を重点的に進めていくべきだと思いますか。（分野ごとに○は3つまで）

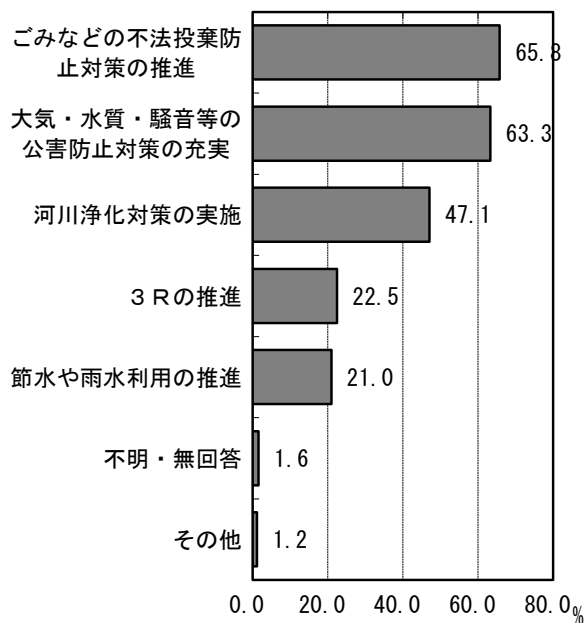
【自然・歴史】

(MA) N = 739



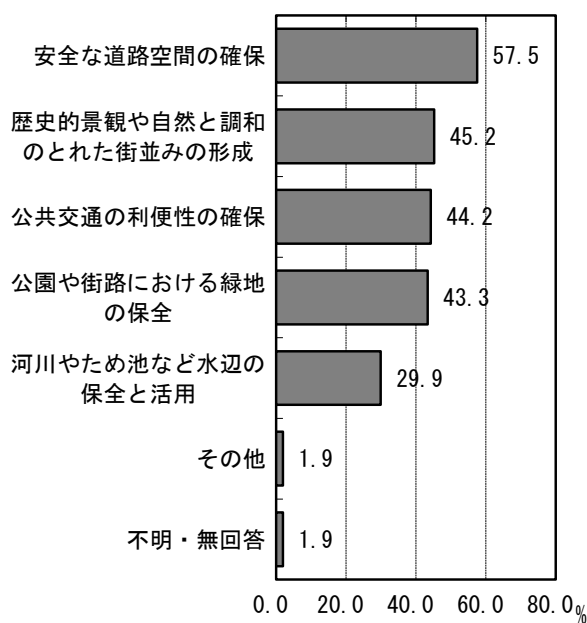
【生活環境】

(MA) N = 739



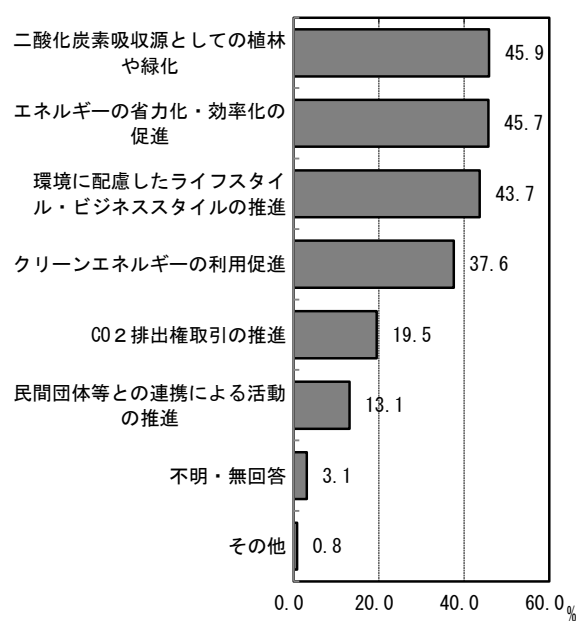
【都市環境】

(MA) N = 739



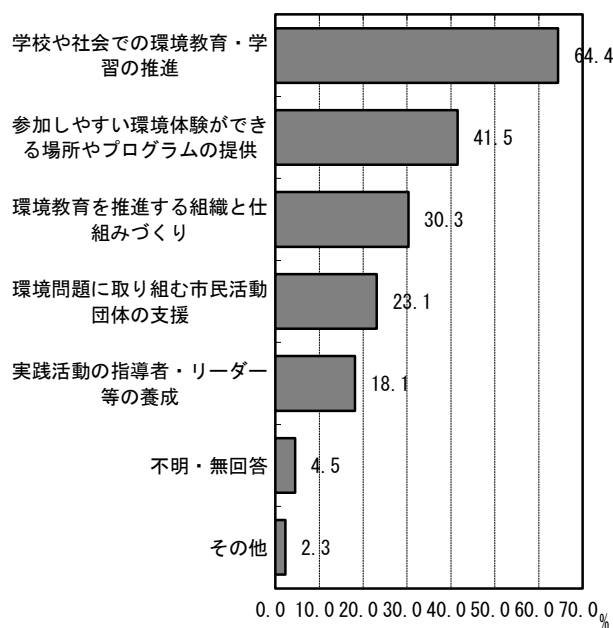
【地球温暖化対策】

(MA) N = 739



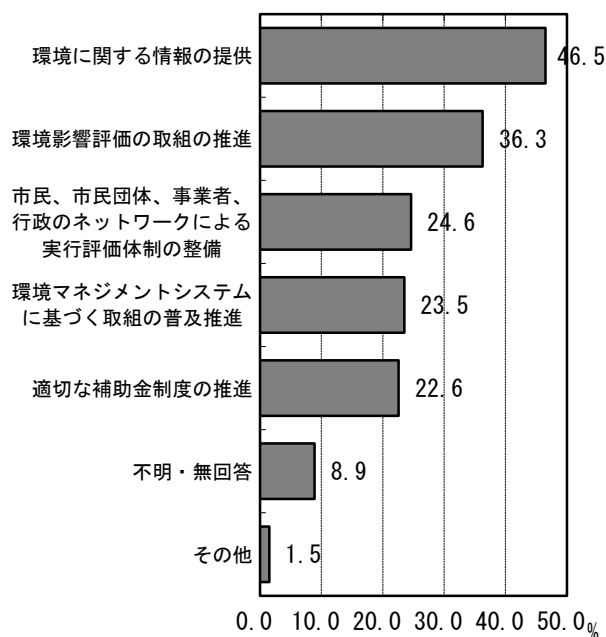
【環境教育】

(MA) N = 739



【その他】

(MA) N = 739



各分野の上位3位まで			
自然・歴史	・ 環境破壊の恐れがある開発行為の防止 (68.3%) ・ 森林の荒廃防止 (46.8%) ・ 里山などの自然の保全と活用 (44.9%)	生活環境	・ ごみなどの不法投棄防止対策の推進 (65.8%) ・ 大気・水質・騒音等の公害防止対策の充実 (63.3%) ・ 河川浄化対策の実施 (47.1%)
都市環境	・ 安全な道路空間の確保 (57.5%) ・ 歴史的景観や自然と調和のとれた街並みの形成 (45.2%) ・ 公共交通の利便性の確保 (44.2%)	地球温暖化対策	・ 二酸化炭素吸収源としての植林や緑化 (45.9%) ・ エネルギーの省力化・効率化の促進 (45.7%) ・ 環境に配慮したライフスタイル・ビジネススタイルの推進 (43.7%)
環境教育	・ 学校や社会での環境教育・学習の推進 (64.4%) ・ 参加しやすい環境体験ができる場所やプログラムの提供 (41.5%) ・ 環境教育を推進する組織と仕組みづくり (30.3%)	その他	・ 環境に関する情報の提供 (46.5%) ・ 環境影響評価の取組の推進 (36.3%) ・ 市民、市民団体、事業者、行政のネットワークによる実行評価体制の整備 (24.6%)

■居住ゾーン別に見た行政が重点的に進めるべき施策

(単位：％)

			居住区別							
			全体	西北部	中部	中央市街地	南部	東部	月ヶ瀬	都祁
自然・歴史	1	里山などの自然の保全と活用	19.4%	20.7%	11.7%	17.1%	21.5%	32.1%	16.7%	17.6%
	2	森林の荒廃防止	20.3%	20.3%	20.8%	20.2%	16.9%	21.4%	16.7%	17.6%
	3	環境破壊の恐れがある開発行為の防止	29.6%	29.8%	27.5%	29.4%	29.2%	25.0%	16.7%	29.4%
	4	多様な動植物の生息場所の保全	6.4%	6.3%	21.7%	6.8%	9.2%	3.6%	0.0%	11.8%
	5	野生動植物の保護・管理	6.0%	5.7%	2.5%	8.0%	7.7%	7.1%	33.3%	0.0%
	6	歴史的文化資産の保全と活用	18.2%	17.2%	15.8%	18.5%	15.4%	10.7%	16.7%	23.5%
生活環境	1	大気・水質・騒音等の公害防止対策の充実	28.8%	29.2%	31.1%	30.0%	23.1%	23.3%	0.0%	27.8%
	2	河川浄化対策の実施	21.4%	20.6%	30.0%	22.2%	15.4%	23.3%	0.0%	22.2%
	3	節水や雨水利用の推進	9.6%	9.5%	11.1%	10.1%	9.0%	6.7%	0.0%	5.6%
	4	3Rの推進	10.2%	10.3%	14.4%	9.5%	12.8%	6.7%	33.3%	5.6%
	5	ごみなどの不法投棄防止対策の推進	29.9%	30.3%	13.3%	28.2%	39.7%	40.0%	66.7%	38.9%
都市環境	1	河川やため池など水辺の保全と活用	13.6%	13.5%	15.3%	13.1%	13.0%	24.1%	0.0%	16.7%
	2	公園や街路における緑地の保全	19.7%	21.6%	21.6%	15.3%	13.9%	3.4%	0.0%	0.0%
	3	安全な道路空間の確保	26.1%	25.3%	21.6%	28.4%	33.3%	34.5%	66.7%	38.9%
	4	公共交通の利便性の確保	20.1%	19.1%	20.7%	20.2%	25.9%	24.1%	0.0%	27.8%
	5	歴史的景観や自然と調和のとれた街並みの形成	20.5%	20.5%	20.7%	23.0%	13.9%	13.8%	33.3%	16.7%
地球温暖化対策	1	環境に配慮したライフスタイル・ビジネススタイルの推進	21.3%	21.1%	21.4%	8.9%	24.0%	32.1%	0.0%	17.6%
	2	エネルギーの省力化・効率化の促進	22.3%	20.6%	27.6%	21.4%	21.9%	25.0%	50.0%	23.5%
	3	クリーンエネルギーの利用促進	18.3%	19.3%	18.4%	19.6%	12.5%	14.3%	0.0%	29.4%
	4	二酸化炭素吸収源としての植林や緑化	22.3%	23.3%	17.3%	24.4%	21.9%	17.9%	0.0%	11.8%
	5	CO2排出権取引の推進	9.5%	9.6%	6.1%	11.3%	11.5%	7.1%	50.0%	11.8%
	6	民間団体等との連携による活動の推進	6.4%	6.0%	9.2%	14.3%	8.3%	3.6%	0.0%	5.9%
環境教育	1	学校や社会での環境教育・学習の推進	36.3%	36.2%	39.0%	32.9%	38.0%	36.0%	0.0%	26.7%
	2	環境教育を推進する組織と仕組みづくり	17.1%	16.4%	15.9%	21.0%	17.4%	20.0%	0.0%	13.3%
	3	実践活動の指導者・リーダー等の養成	10.2%	10.0%	12.2%	11.2%	13.0%	16.0%	0.0%	13.3%
	4	参加しやすい環境体験ができる場所やプログラムの提供	23.4%	23.9%	19.5%	19.6%	20.7%	12.0%	100.0%	26.7%
	5	環境問題に取り組む市民活動団体の支援	13.0%	13.5%	13.4%	15.4%	10.9%	16.0%	0.0%	20.0%
その他	1	環境影響評価の取組の推進	23.6%	25.3%	22.8%	20.9%	24.1%	33.3%	0.0%	14.3%
	2	環境マネジメントシステムに基づく取組の普及推進	15.3%	14.8%	36.8%	16.3%	18.1%	23.8%	0.0%	14.3%
	3	環境に関する情報の提供	30.3%	30.1%	17.5%	28.7%	25.3%	19.0%	50.0%	35.7%
	4	市民、市民団体、事業者、行政のネットワークによる実行評価体制の整備	16.0%	14.6%	21.1%	23.3%	18.1%	9.5%	0.0%	14.3%
	5	適切な補助金制度の推進	14.7%	15.1%	1.8%	10.9%	14.5%	14.3%	50.0%	21.4%

※各分野の上位3項目に網掛けしている。同位が複数項目あって上位3項目を選べない場合のみ、4項目までを網掛けしている。下位3項目または4項目がすべて同位であった場合は、網掛けしていない。

行政が重点的に進めるべき施策を、分野別に、全体結果と居住ゾーン別結果で比較すると、以下のようになります。

全体結果と違う傾向がみられるゾーン別の特徴を分野ごとにみると、

- ・「自然歴史分野」：「中部ゾーン」では、「多様な動植物の生息場所の保全」が、「中央市街地ゾーン」、「都祁ゾーン」では、「森林の荒廃防止」が、「月ヶ瀬ゾーン」では、「歴史的文化資産の保全と活用」が上位3位に入っています。
- ・「生活環境分野」：「中部ゾーン」「月ヶ瀬ゾーン」では、「3Rの推進」が上位3位に入っています。
- ・「都市環境分野」：「河川やため池など水辺の保全と活用」が「東部ゾーン」と「都祁ゾーン」で上位3位に入っており、「西北部ゾーン」「中部ゾーン」「南部ゾーン」では「公園や街路における緑地の保全」が上位3位に入っています。
- ・「地球温暖化対策分野」：「中部ゾーン」「中央市街地ゾーン」「都祁ゾーン」では、「クリーンエネルギーの利用促進」が上位3位に入っている。また、全てのゾーンにおいて「民間団体等との連携による活動の推進」は低い割合を示しています。
- ・「環境教育分野」：「東部ゾーン」では、他のゾーンで高い割合の「参加しやすい環境体験ができる場所やプログラムの提供」より、「実践活動の指導者・リーダー等の養成」や「環境問題に取り組む市民活動団体の支援」が高い割合を示しています。
- ・「その他分野」：「月ヶ瀬ゾーン」「都祁ゾーン」では、他のゾーンで高い割合の「環境影響評価の取組の推進」が低く、「環境に関する情報の提供」や「適切な補助金制度の推進」が他のゾーンより高くなっています。また、「東部ゾーン」「月ヶ瀬ゾーン」を除き、「市民、市民団体、事業者、行政のネットワークによる実行評価体制の整備」が高い割合を示しています。

各分野の選択肢「その他」に記入された意見は以下の通りです。

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
自然・歴史	保全に力を入れるあまり、制約が多すぎるし活用できないことが多い。ある程度の緩和も必要	2
	違反者への厳罰と周知を徹底する	1
問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
生活環境	家、道路の脇水路、排水路の汚さの改善	1
	ごみ処理場の発電、熱利用	1
	個人所有の地所で雑草など放棄している土地の管理	1

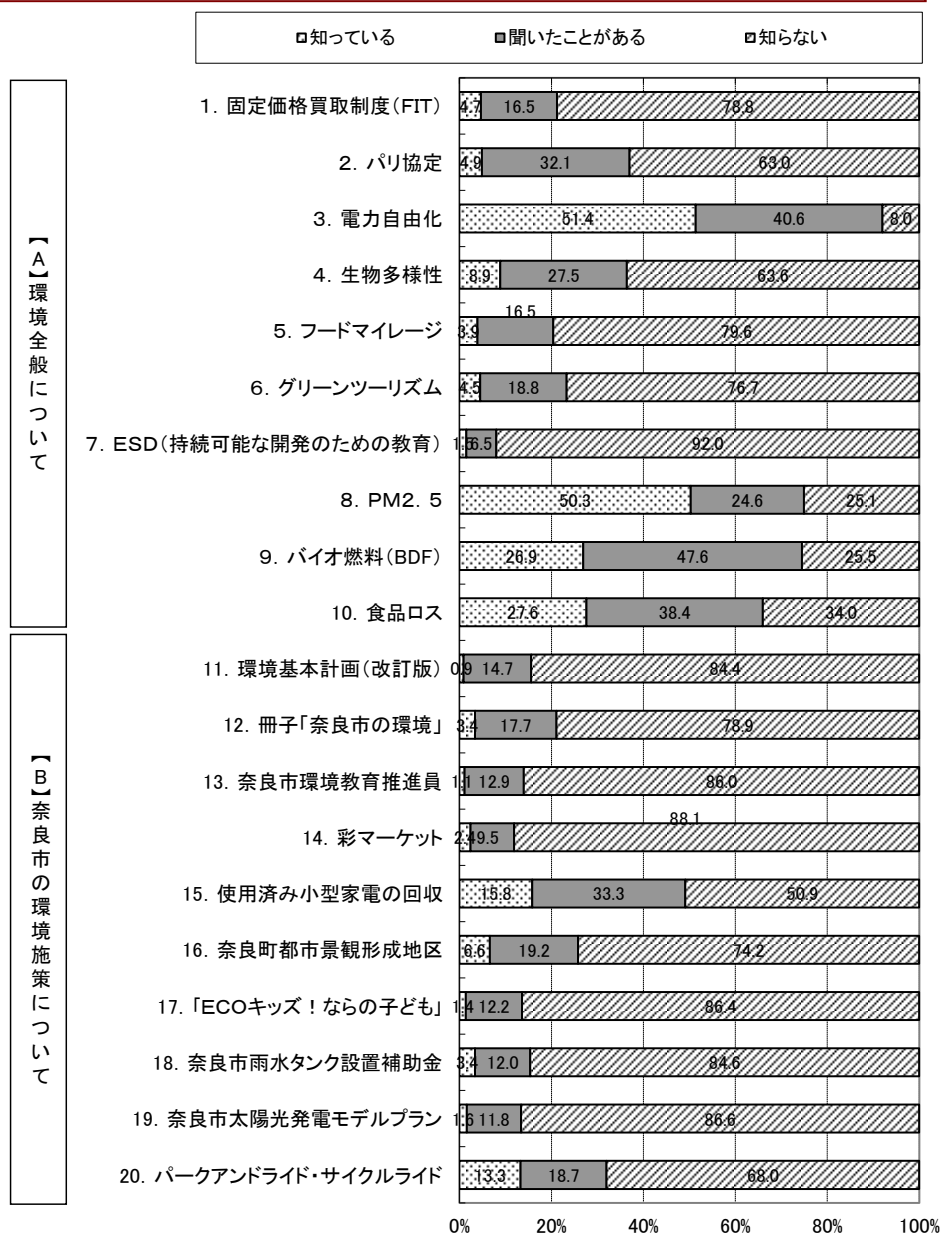
問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
都市環境	歩道・自転車道 ・安心して歩ける道 ・自転車で安心して移動できる道路 ・道路の拡幅	5
	街路樹、雑草などの伐採	3
	公共交通（特にバス）の充実とマイカー抑制	2
	市内の緑地化、緑地に行くまでのバリアフリー対策	2
	西大寺地区の再開発、鉄道の地下化	1

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
地球温暖化対策	自家用車の制限	2
	省CO ₂ 導入に対する補助制度	1
	お金をかけずに出来ることを考える。	1
	本当に温暖化しているのかの検証が必要	1

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
教育環境	環境問題の正しい知識を提供する	5
	子どもの時にきれいな水辺、森や空気、様々な生物、自然にふれる体験が大切	2
	研究機関への援助	1

問9 「行政（奈良市）」が重点的に進めていくべき施策の「その他」意見		件数
その他	実施する（出来る）人材の教育	1

問 10 環境に関するキーワードで、「よく知っている」または「聞いたことがある」言葉は何ですか。（「よく知っている」ものに◎、「聞いたことがある」ものに○）



【A】環境全般について	
「◎知っている」の上位3位まで	「○聞いたことがある」の上位3位まで
3. 電力自由化 (51.4%) 8. PM2.5 (50.3%) 10. 食品ロス (27.6%)	9. バイオ燃料 (BDF) (47.6%) 3. 電力自由化 (40.6%) 10. 食品ロス (38.4%)
【B】奈良市の環境施策について	
「◎知っている」の上位3位まで	「○聞いたことがある」の上位3位まで
15. 使用済み小型家電の回収 (15.8%) 20. パークアンドライド・サイクルライド (13.3%) 16. 奈良町都市景観形成地区 (6.6%)	15. 使用済み小型家電の回収 (33.3%) 16. 奈良町都市景観形成地区 (19.2%) 20. パークアンドライド・サイクルライド (18.7%)

問 1 1 環境をよくするためのアイデアやご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

228 件（アンケート調査票数）のアイデアや意見・要望等がありました。

意見の分類	件数	主な内容
ごみについて (51件)	9 8 6 4 5 3 3 3 3 2 2 1 1 1	・ごみのポイ捨てが多い ・ごみ焼却施設の改善、建設場所 ・ごみの回収日数を増やして欲しい。 ・ごみを減らすように努力していくのが第一歩である。 ・ごみ収集車の収集態度について（ごみこぼし、交通マナー、回収時間等） ・ごみの分別をしっかりとる。 ・ごみ箱を設置して欲しい。 ・ごみの収集場所に関して（カラス対策、ネットの提供等） ・犬のフンの始末のマナーが悪い ・レジ袋の有料化。 ・不法投棄の取り締まり ・ごみの野焼きに困っている。 ・市がもっとリサイクル活動を主体的に進めるべきである。 ・ごみ袋の有料化
道路について (34件)	22 6 6	・道路整備（拡幅、舗装、段差等） ・歩道、歩行者用道路の整備（舗装、街路樹の剪定等） ・自転車専用道路の整備
緑・公園・森林について (40件)	24 9 6 1	・公園、緑地を整備する。 ・森林破壊、伐採を止める ・雑草の除去、樹木の剪定をお願いしたい。 ・森林や休耕地の有効活用
教育について (11件)	11	・環境教育の取組を進めることが大切。
公共交通について (11件)	5 5 1	・公共交通の整備（鉄道、バスの本数増加等） ・交通渋滞の解消 ・公共交通利用の推進
河川、水道について (6件)	2 2 2	・河川の美化（ごみの散乱改善や雑草の除去等） ・河川の水質改善（生活排水、工場排水が要因と思われるもの） ・上下水道の整備
文化遺産について (4件)	4	・文化遺産、文化財、社寺等の保全と活用について
行政に対して (23件)	10 7 2 2 2	・市民参加型の情報提供、情報発信 ・街の美化の推進 ・住民と行政の話し合う場を設けて欲しい。 ・行政自らが率先して取組むべき。 ・太陽光発電の推進

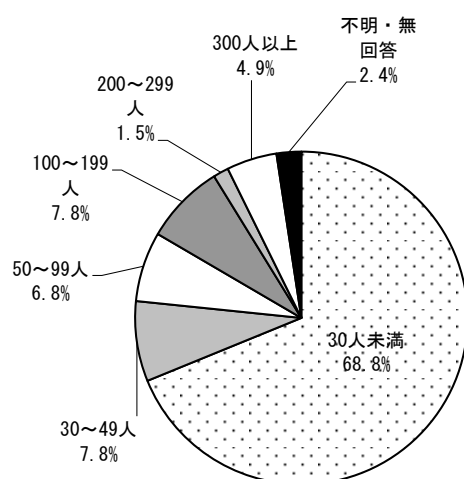
Ⅲ 事業所アンケート調査結果

問 1 事業所の属性・区分

問 1	(1) 従業員数は、100 人未満の事業所が全体の 83.4%、うち 30 人未満が 68.8%を占める。300 人以上は 4.9%。	(2) 業種は、上位から医療・福祉 (32.5%)、建設業 (20.9%)、卸売・小売業 (11.7%)。
	(3) 事業年数は、30 年以上が約半数 (47.1%) を占める。次いで 10 年以上 20 年未満 (23.3%)。	(4) 事業所形態は、事業所・営業所 (45.1%) が最も高く、次いでその他 (21.8%)、工場・作業所 (17.6%)、店舗・飲食店 (17.1%)。
	(5) 施設の延床面積は、100 ㎡～500 ㎡未満 (30.6%)、100 ㎡未満 (21.8%)、500 ㎡～1,000 ㎡未満 (8.6%) の順。	(6) 年間売上高は 1 億円～5 億円未満 (24.3%)、5 千万円未満 (21.4%)、10 億円～50 億円未満 (15.0%) の順。1,000 億円以上は 0.5%。
	(7) 省エネ法に基づく特定事業者の指定は、「指定を受けていない」が 81.5%を占めている。「指定を受けている」は 10.7%。	

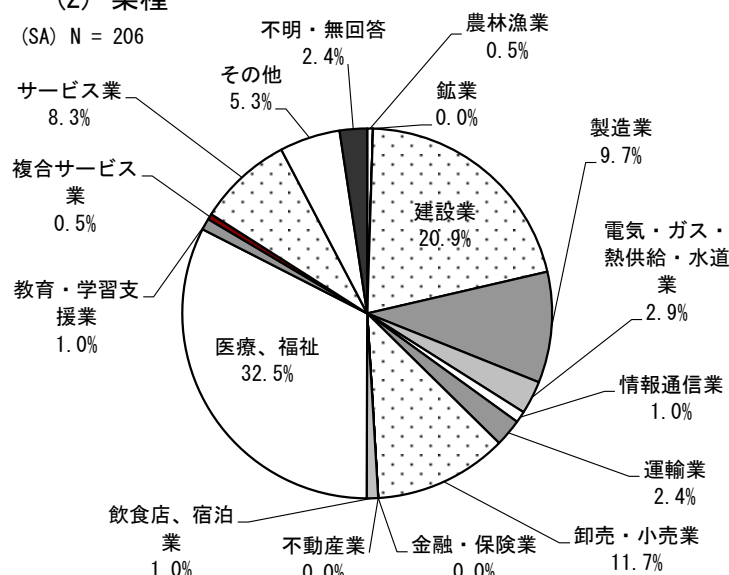
(1) 従業員数

(SA) N = 206



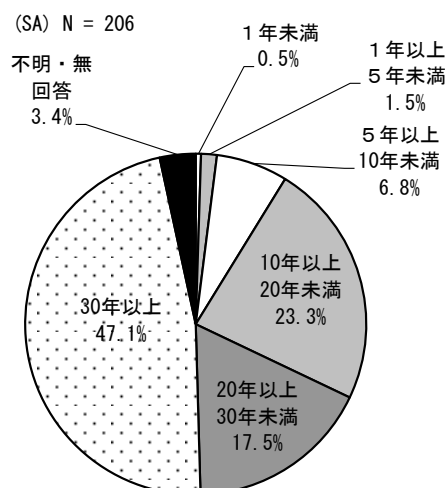
(2) 業種

(SA) N = 206



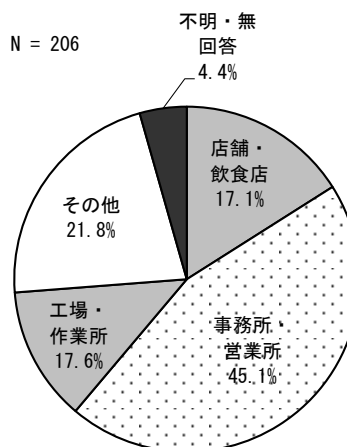
(3) 事業年数

(SA) N = 206



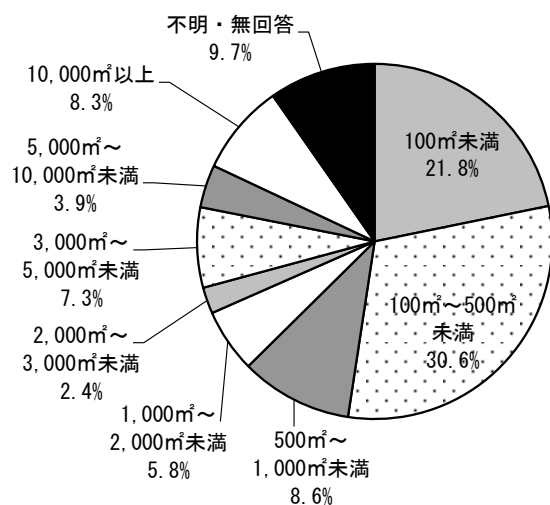
(4) 事業所形態

(SA) N = 206



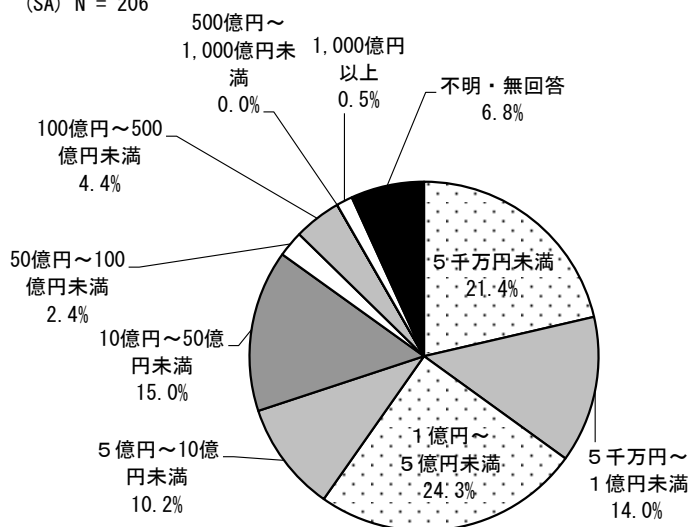
(5) 施設の延床面積

(SA) N = 206



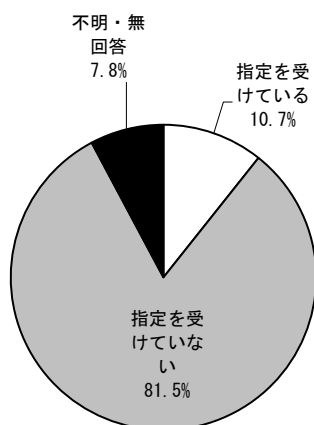
(6) 年間売上高

(SA) N = 206



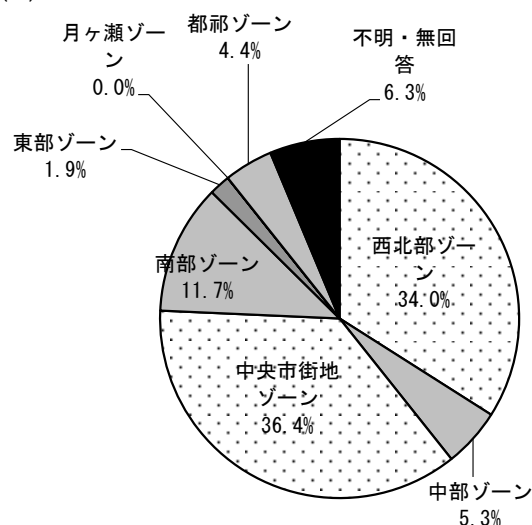
(7) 省エネ法に基づく特定事業者の指定

(SA) N = 206



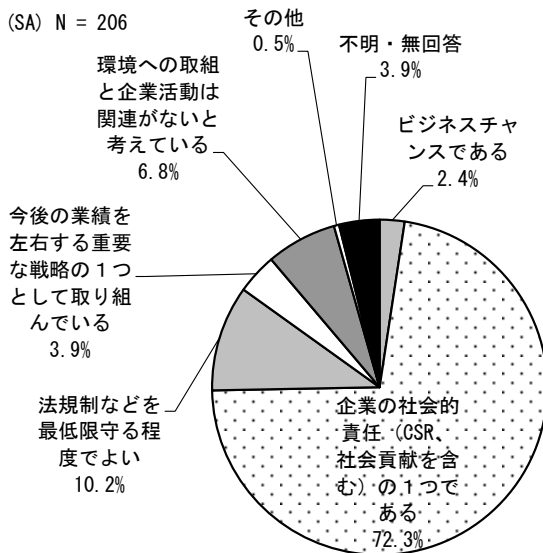
問2 貴事業所の所在地がある小学校区が含まれるゾーンの番号に○をつけてください。

(SA) N = 206

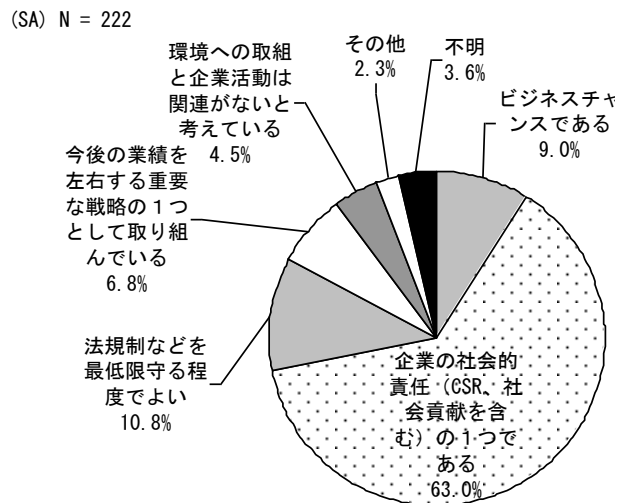


事業所所在地のゾーンは、上位3位が中央市街地ゾーン 36.4%、西北部ゾーン 34.0%、南部ゾーン 11.7%です。

問3 貴事業所では、企業の環境への取組と企業活動のあり方についておたずねします。
貴事業所のお考えに最も近いものは次のうちのどれですか。（1つに○）



前回調査（平成22年度）の結果

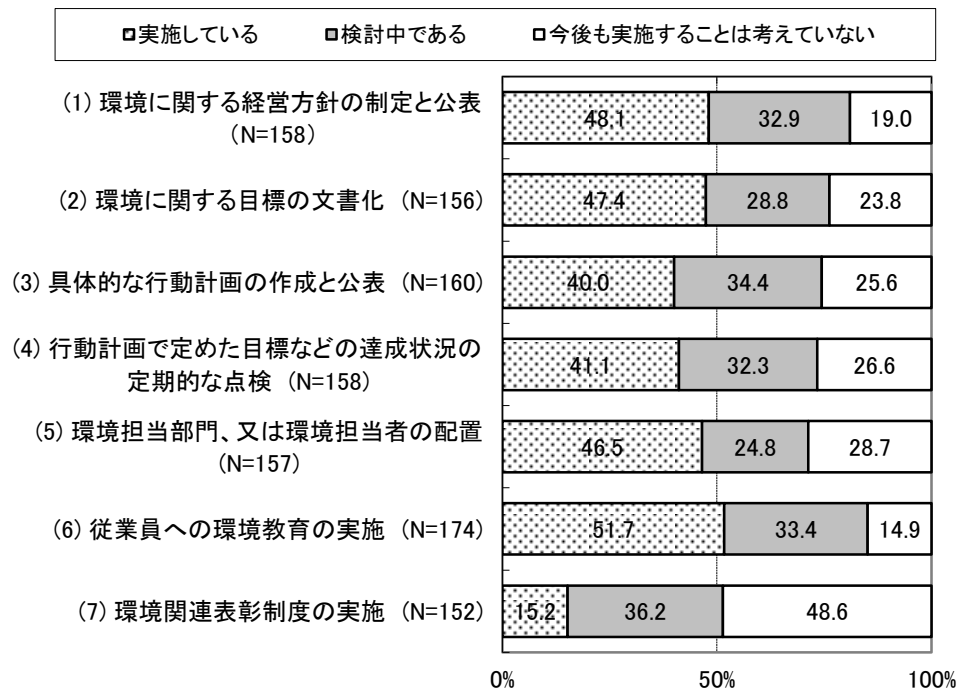


環境への取組と企業活動のあり方については、「企業の社会的責任（CSR、社会貢献を含む）の1つである」と回答した企業が最も多く72.8%、次いで「法規制などを最低限守る程度でよい」10.2%、「環境への取組と企業活動は関連がないと考えている」6.8%、「今後の業績を左右する重要な戦略の1つとして取り組んでいる」3.9%と続いています。

一方、前回の平成22年度調査結果では、「社会的責任（CSR、社会貢献を含む）の1つである」と回答した企業が最も多く63.0%、次いで「法規制などを最低限守る程度でよい」10.8%、「ビジネスチャンスである」9.0%、「今後の業績を左右する重要な戦略の1つとして取り組んでいる」6.8%の順となっています。

「企業の社会的責任（CSR、社会貢献を含む）の1つである」という企業の割合が前回に比べ9.8%増加しています。

問4 貴事業所の環境に関する取組状況についておたずねします。(それぞれ1つに○)

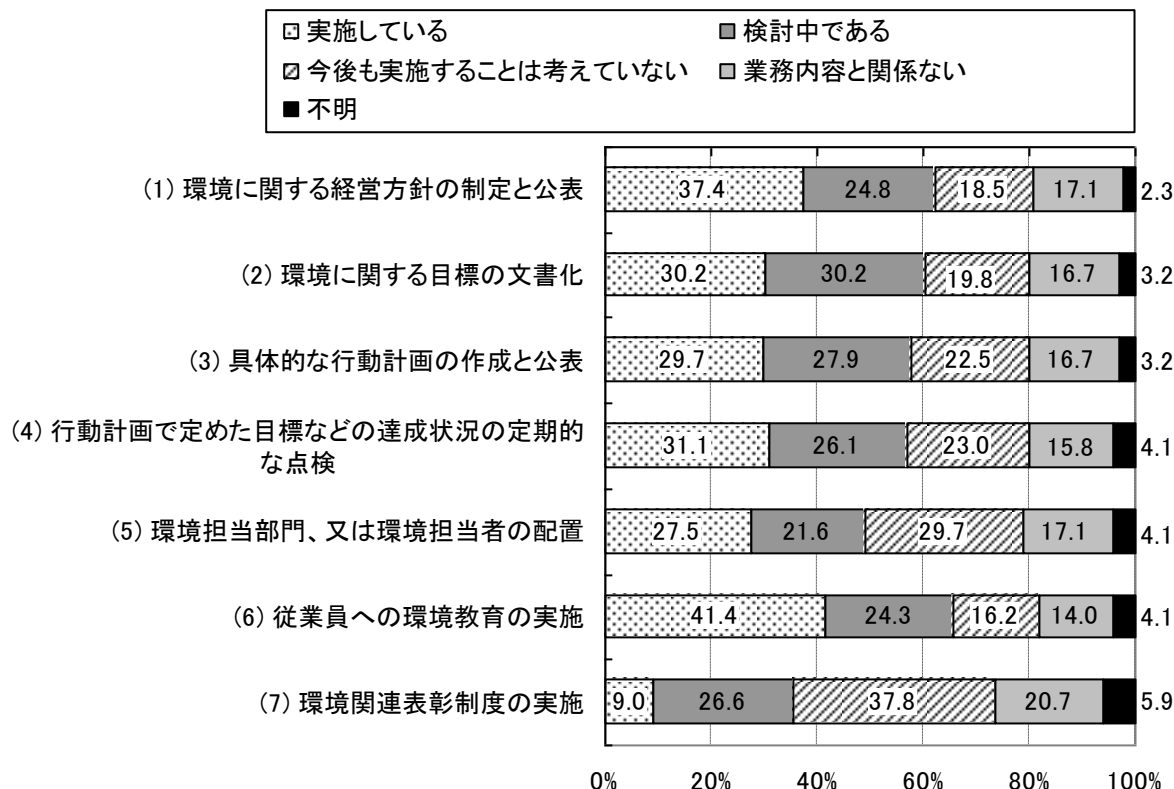


(注)「業務内容と関係ない」と回答した事業所及び「不明」を除いて集計

環境に関する取組状況について、「実施している」「検討中である」「今後も実施することは考えていない」のそれぞれについて、割合の高い上位3位は以下の通りです。

「実施している」 の上位3位まで	「検討中である」 の上位3位まで	「今後も実施することは考えていない」 の上位3位まで
(6) 従業員への環境教育の実施 (51.7%)	(7) 環境関連表彰制度の実施 (36.2%)	(7) 環境関連表彰制度の実施 (48.6%)
(1) 環境に関する経営方針の制定と 公表 (48.1%)	(3) 具体的な行動計画の作成と公表 (34.4%)	(5) 環境担当部門、又は環境担当 者の配置 (28.7%)
(2) 環境に関する目標の文書化 (47.4%)	(6) 従業員への環境教育の実施 (33.4%)	(4) 行動計画で定めた目標などの達 成状況の定期的な点検 (26.6%)

前回調査（平成 22 年度）の結果



「実施している」の上位3位まで	「検討中である」の上位3位まで	「今後も実施することは考えていない」の上位3位まで
(6) 従業員への環境教育の実施 (41.4%)	(2) 環境に関する目標の文書化 (30.2%)	(7) 環境関連表彰制度の実施 (37.8%)
(1) 環境に関する経営方針の制定と公表 (37.4%)	(3) 具体的な行動計画の作成と公表 (27.9%)	(5) 環境担当部門、又は環境担当者の配置 (29.7%)
(4) 行動計画で定めた目標などの達成状況の定期的な点検 (31.1%)	(7) 環境関連表彰制度の実施 (26.6%)	(4) 行動計画で定めた目標などの達成状況の定期的な点検 (23.0%)

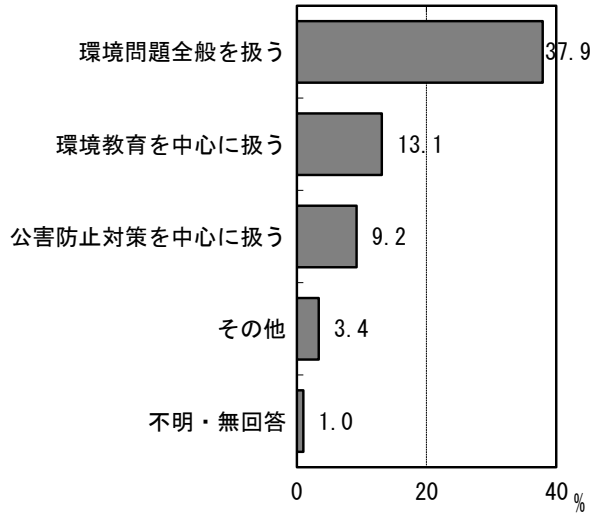
環境に関する取組状況については、「実施している」取組のうち「従業員への環境教育の実施」と回答した企業が最も多く 51.7%、次いで「環境に関する経営方針の制定と公表」48.1%、「環境に関する目標の文書化」47.4%と続いています。

一方、前回の平成 22 年度調査結果では、「従業員への環境教育の実施」と回答した企業が最も多く 41.4%、次いで「環境に関する経営方針の制定と公表」37.4%、「行動計画で定めた目標などの達成状況の定期的な点検」31.1%の順となっています。

いずれの項目についても、「実施している」企業の割合が前回に比べ増加しています。

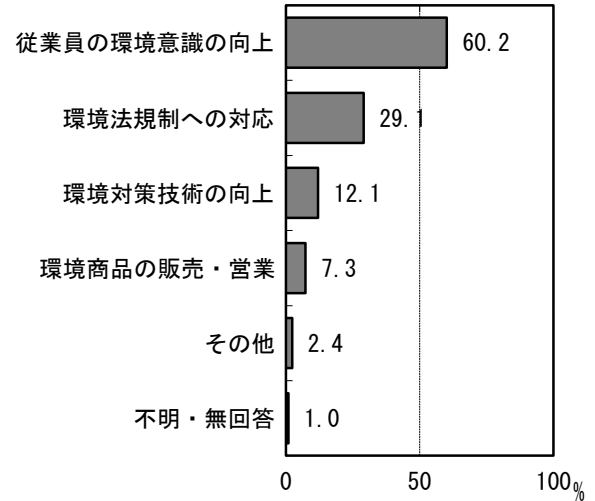
問5 貴事業所の環境担当部門、又は環境担当者の行う業務はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

(MA) N = 206



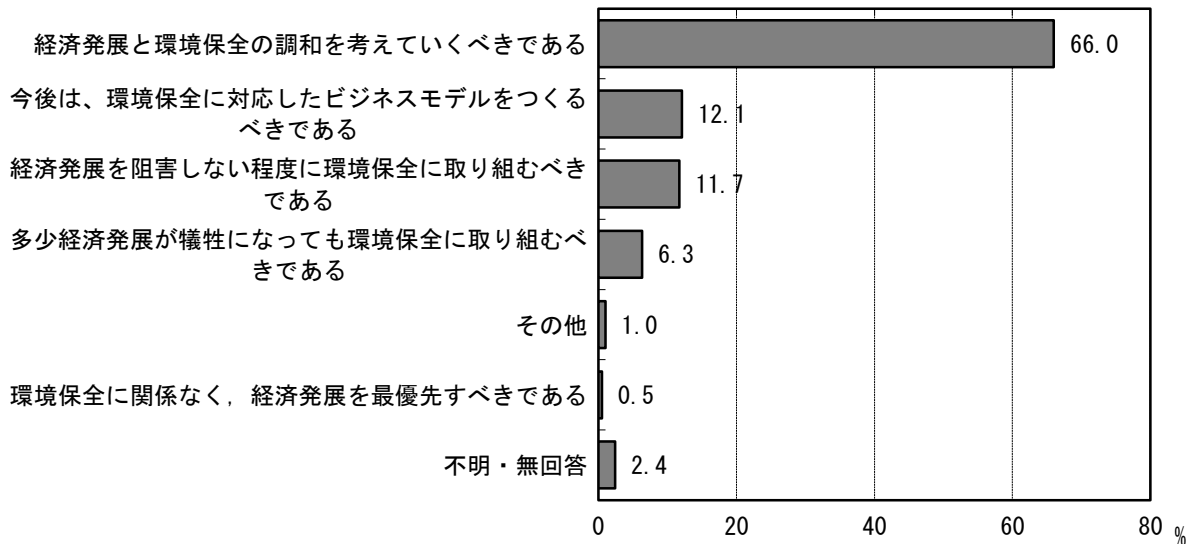
問6 貴事業所で行っている環境教育の内容はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

(MA) N = 206

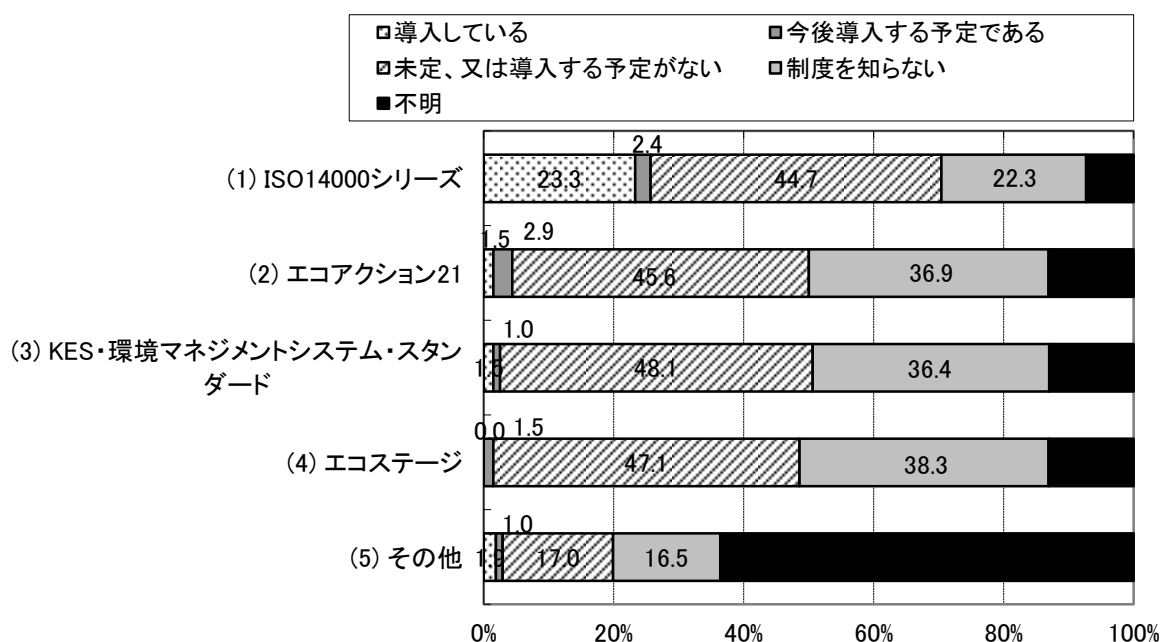


問7 「経済発展」と「環境保全」の関係について、貴事業所のお考えに近いものは次のうちのどれですか。(1つに○)

(MA) N = 206

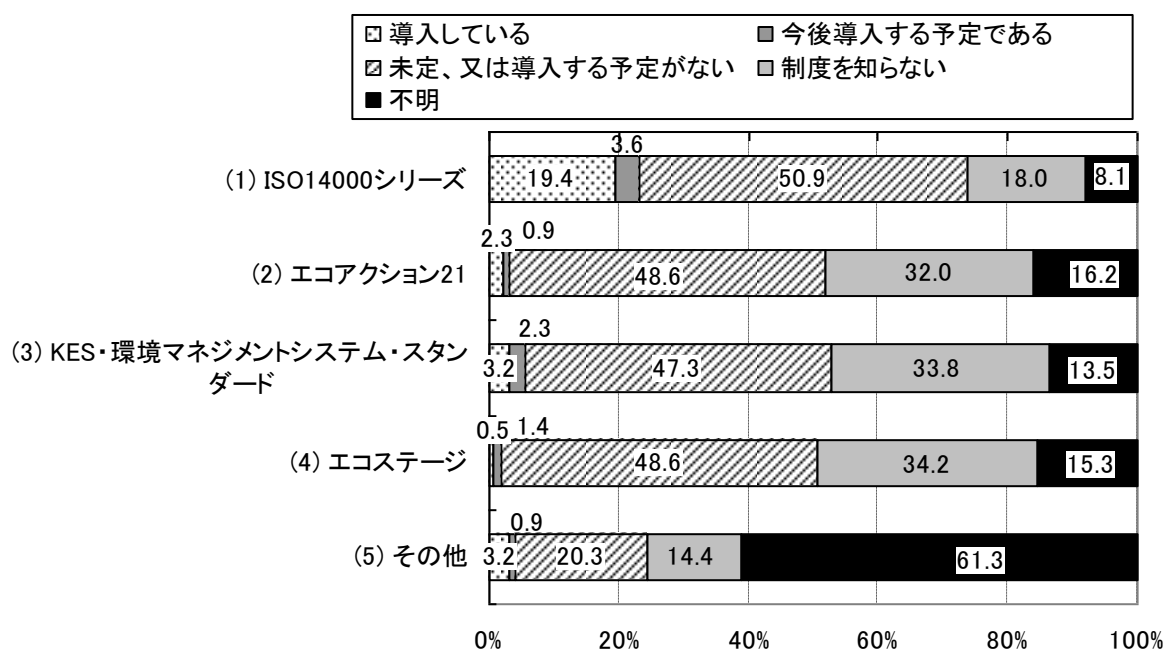


問8 貴事業所では環境管理のための仕組み（環境マネジメントシステム）を導入していますか。（あてはまるものに○）

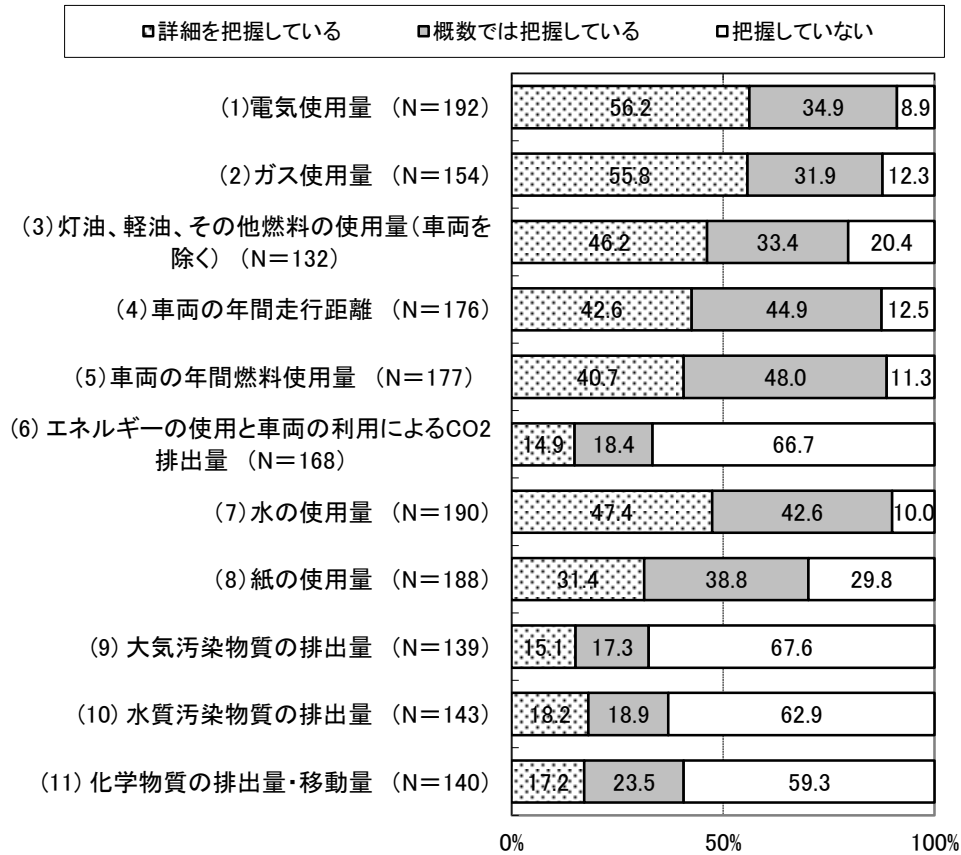


環境管理のための仕組みについては、「導入している」仕組みのうち「ISO14000 シリーズ」と回答した企業が最も多く 23.3%となっており、前回の 19.4%より約 3.9%の増加となっています。

前回調査（平成 22 年度）の結果



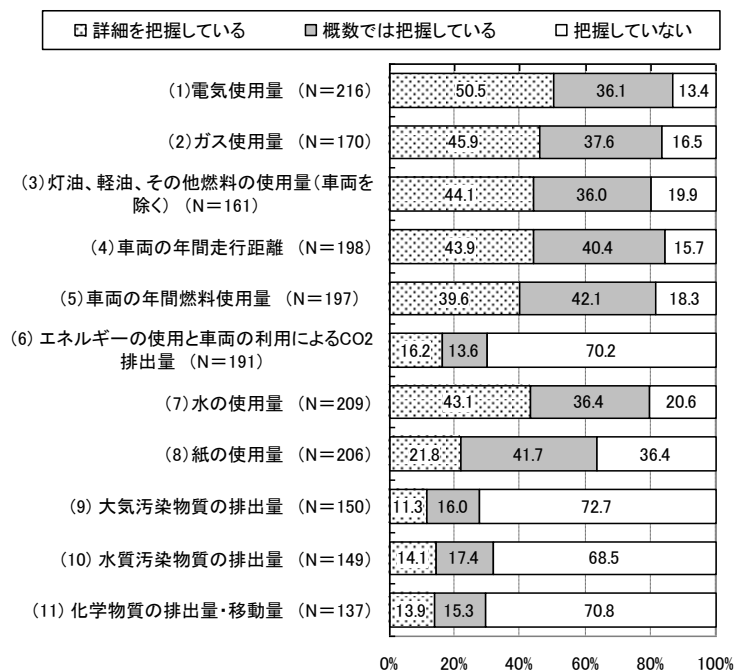
問9 貴事業所では、環境負荷量をはじめとする以下の数値について把握していますか。
(それぞれ1つに○)



(注)「業務内容と関係がない」と回答した事業所及び「不明」を除いて集計

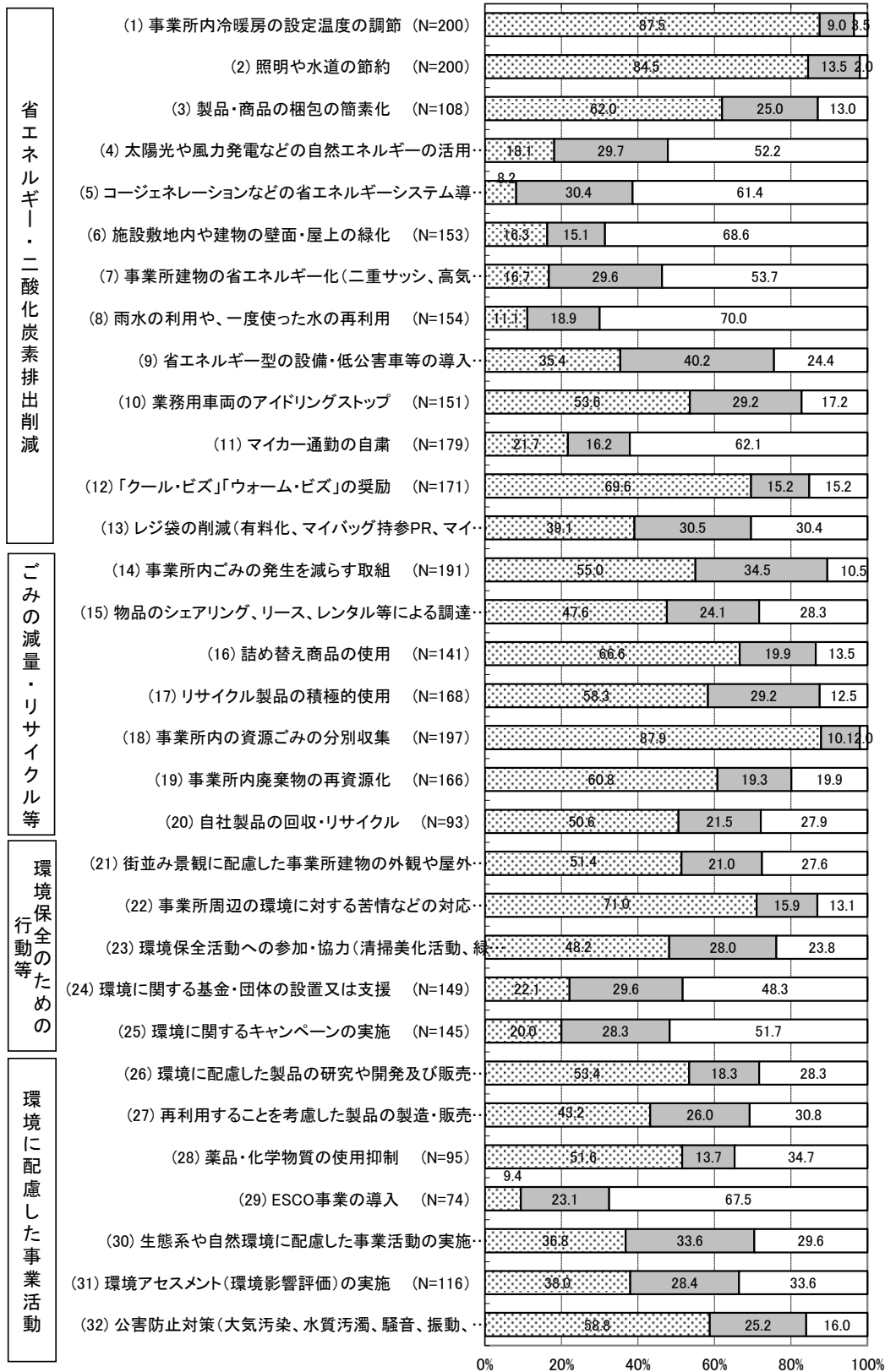
前回の平成22年度調査結果に比べ、ほぼ全ての項目において、使用量を把握している企業の割合が増加している。一方で、灯油、軽油、その他の燃料の使用量と車両の年間燃料使用量については、把握している企業の割合に若干低下が見られる。

前回調査(平成22年度)の結果



問 10 貴事業所の日常業務などにおける環境保全の取組についておたずねします。
(それぞれ1つに○)

□実施している □検討中である □今後も実施することは考えていない



(注)「業務内容と関係ない」と回答した事業所及び「不明」を除いて集計

■前回調査（平成 22 年度）の結果

□ 実施している

□ 検討中である

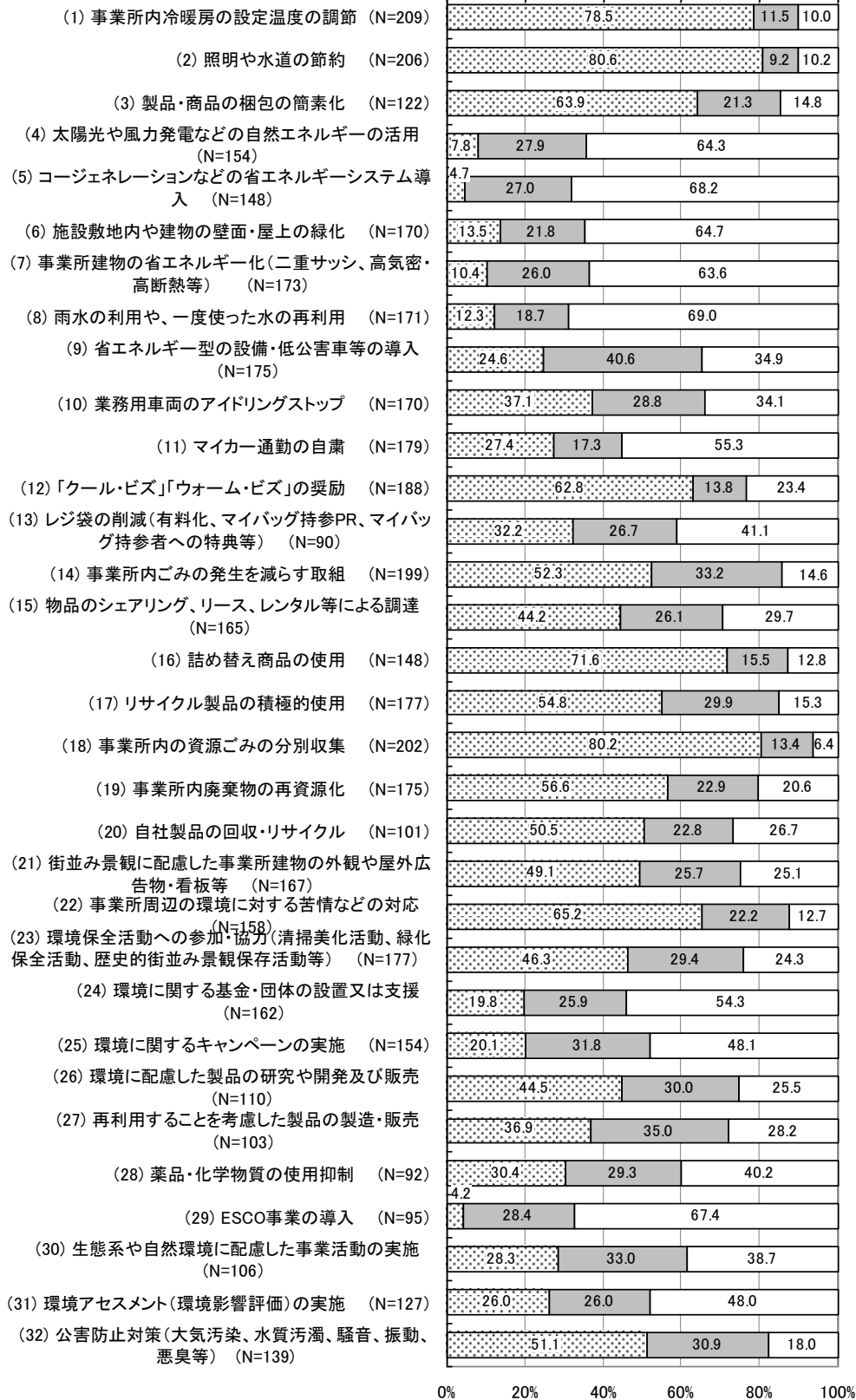
□ 今後も実施することは考えていない

省エネルギー・二酸化炭素排出削減

ごみの減量・リサイクル等

環境保全のための行動等

環境に配慮した事業活動



0% 20% 40% 60% 80% 100%

○今回の調査結果

順位	「実施している」の ランキング	順位	「検討中である」の ランキング	順位	「今後とも実施することは 考えていない」のランキング
1	(18) 事業所内の資源ごみの分別収集 87.9%	1	(9) 省エネルギー型の設備・低公害車等の導入 40.2%	1	(8) 雨水の利用や、一度使った水の再利用 70.0%
2	(1) 事業所内冷暖房の設定温度の調節 87.1%	2	(14) 事業所内のごみの発生を減らす取組 34.5%	2	(6) 施設敷地内や建物の壁面・屋上の緑化 68.6%
3	(2) 照明や水道の節約 84.5%	3	(30) 生態系や自然環境に配慮した事業活動の実施 33.6%	3	(29) ESCO事業の導入 67.5%
4	(22) 事業所周辺の環境に対する苦情などの対応 71.0%	4	(13) レジ袋の削減（有料化、マイバッグ持参PR、マイバッグ持参者への特典等） 30.5%	4	(11) マイカー通勤の自粛 62.1%
5	(12) 「クール・ビズ」「ウォーム・ビズ」の奨励 69.6%	5	(5) コージェネレーションなどの省エネルギーシステム導入 30.4%	5	(5) コージェネレーションなどの省エネルギーシステム導入 61.4%

○前回調査（平成 22 年実施）の結果

順位	「実施している」の ランキング	順位	「検討中である」の ランキング	順位	「今後とも実施することは 考えていない」のランキング
1	(2) 照明や水道の節水 80.6%	1	(9) 省エネルギー型の設備・低公害車等の導入 40.6%	1	(8) 雨水の利用や、一度使った水の再利用 69.0%
2	(18) 事業所内の資源ごみの分別収集 80.2%	2	(27) 再利用することを考慮した製品の製造・販売 35.0%	2	(5) コージェネレーションなどの省エネルギーシステム導入 68.2%
3	(1) 事業所内冷暖房の設定温度の調節 78.5%	3	(14) 事業所内のごみの発生を減らす取組 33.2%	3	(29) ESCO事業の導入 67.4%
4	(16) 詰め替え商品の使用 71.6%	4	(30) 生態系や自然環境に配慮した事業活動の実施 33.0%	4	(6) 施設敷地内や建物の壁面・屋上の緑化 64.7%
5	(22) 事業所周辺の環境に対する苦情などの対応 65.2%	5	(25) 環境に関するキャンペーンの実施 31.8%	5	(4) 太陽光や風力発電などの自然エネルギーの活用 64.3%

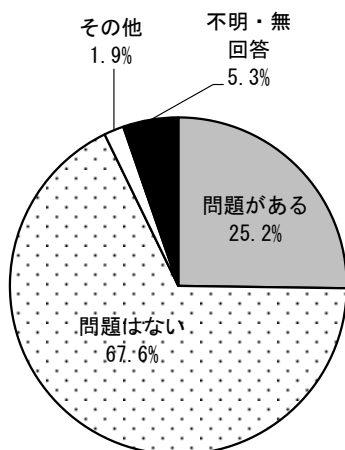
■前回調査（平成 22 年度実施）との比較

前回調査から 5 年が経過し、事業所の環境に対する意識や日常業務における取組はどの程度変化しているのかを知るために、両調査における同じ項目の結果を比較しました。

- ・両調査における上位ランキングを見ると、上位 5 項目中 4 項目が前回と同じ項目となっており、「クール・ビズ」「ウォーム・ビズ」の奨励の割合が増加しています。
- ・「検討中である」のランキングでは、上位 5 項目中 3 項目が前回と同じ項目になっている。他の 2 項目については、「レジ袋の削減（有料化、マイバッグ持参 PR、マイバッグ持参者への特典等）」の 30.5%、「コージェネレーションなどの省エネルギーシステム導入」の 30.4%となっており、省エネ、省資源への意識の高まりが伺えます。
- ・「今後とも実施することは考えていない」では、上位 5 項目中 4 項目が前回と同じ項目となっているが、「太陽光や風力発電などの自然エネルギーの活用」については、今後、実施する可能性が高まっているものと考えられます。

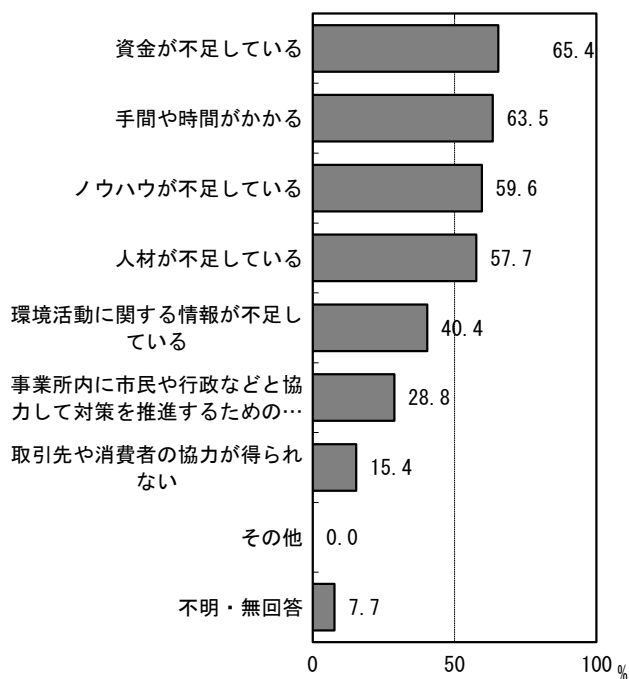
問 11 貴事業所が問 10に示すような環境
保全のための取組を進める上で、問
題となっていることはありますか。
(1つに○)

(SA) N = 206



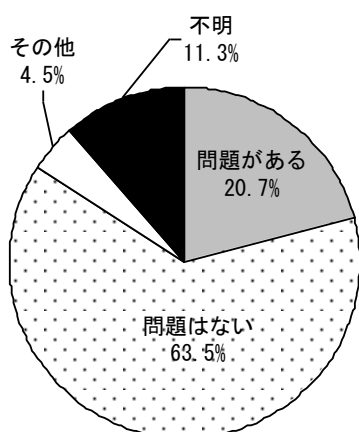
問 11－(1) 問 11 で「1. 問題がある」と答
えた事業所のみお答え下さい。
貴事業所が環境保全の取組を進
めるうえで、問題となっているこ
とは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

(MA) N = 52

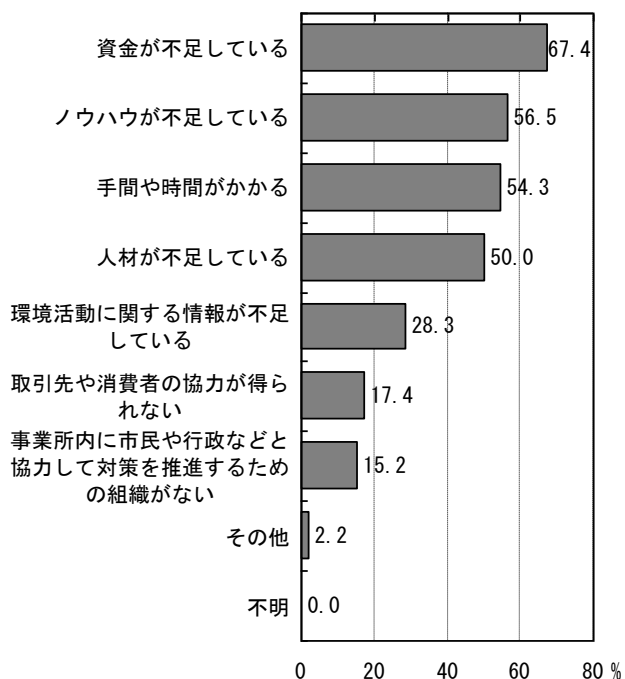


前回調査（平成 22 年度）の結果

(SA) N = 222

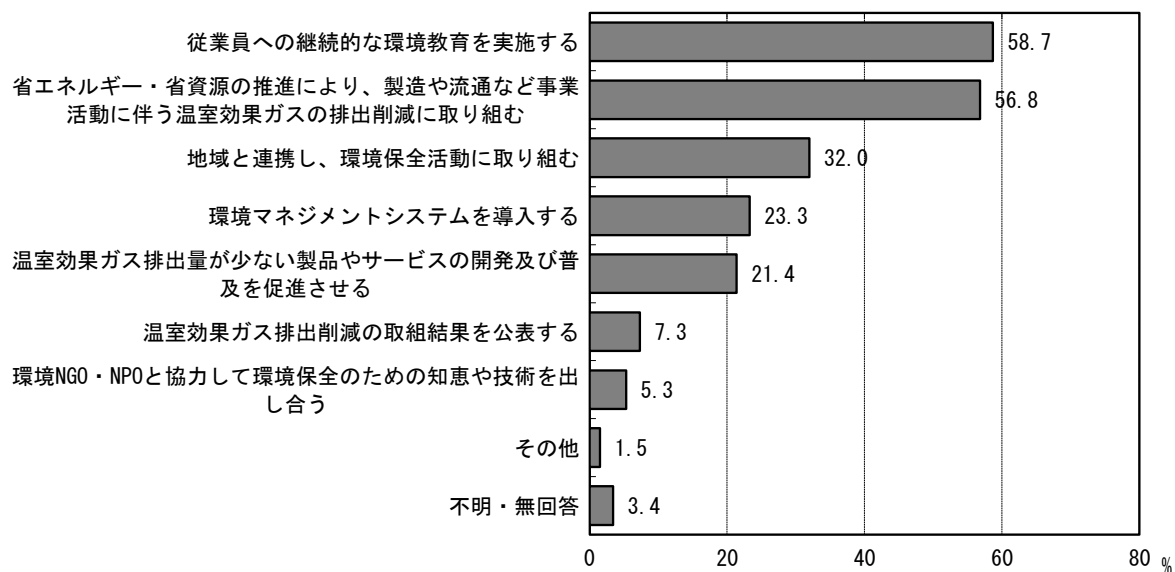


(MA) N = 46



問 12 環境保全のために企業ができる取組は何だと考えますか。(○は3つまで)

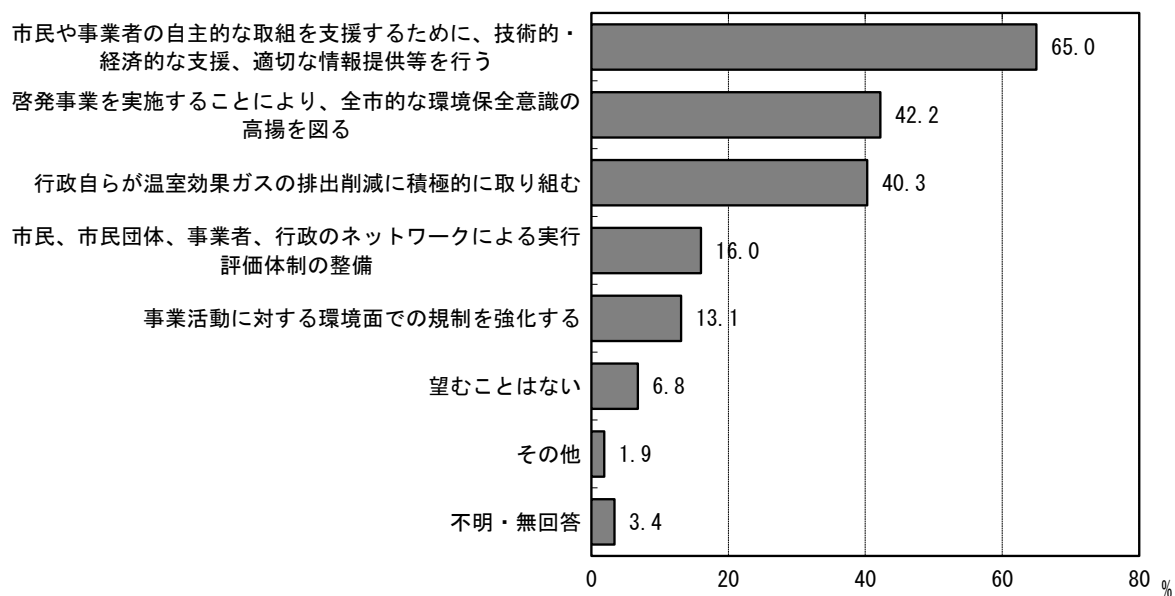
(MA) N = 206



問 12 環境保全のために企業ができる取組についての「その他」意見	件数
感染物・ゴミ等の処理	1
禁煙	1

問 13 環境保全対策について行政（奈良市）に望むことは何ですか。(○は3つまで)

(MA) N = 206



問 13 環境保全対策について行政（奈良市）に望むことについての「その他」意見	件数
環境保全は同色自治体との広域な連携が不可欠である。こうした広域の取組に積極的に参加すべき	1

問 14 環境をよくするためのアイデアやご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

22 件（アンケート調査票数）のアイデアや意見・要望等がありました。

意見の分類	主な内容
ごみについて	・不法投棄の指導、整備 ・ごみの分別強化 ・レジ袋の有料化 ・発生残材を減らす。 ・一般家庭からのごみと事業所からのごみの分別に一貫性がない ・資源ごみ等の回収ステーションの設置 ・リサイクルやリデュースに関する規定の明確化 ・街の美化運動の推進
環境保全について	・必要以上の森林や農地の破壊をやめる ・緑化の推進
環境教育について	・環境教育に活用できる里山等の緑地の増加 ・学校現場で「土」「水」「動植物」とふれあう学習をできるだけ多く実施する。
行政に対して	・毎月発行する市の広報誌に企業の取組を紹介する。 ・消費者が参加しやすい環境啓発イベントを実施 ・地域住民の要望を受け早急に対応できるボランティア活動が必要 ・新しく建設する工場、ビル、社屋へのソーラーパネル設置の義務付け ・企業の営業車両への環境配慮型車両導入への助成金の交付 ・自転車通勤の推進の為の助成金の交付 ・市の実施する環境対策に寄付や企業参画を呼びかける仕組みづくりの実施 ・環境規制基準の見直し ・エコアクション 21 の市、県への浸透がうすい ・禁煙条例の施行 ・喫煙場所の個室化